

令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	鬼怒川ゴム工業株式会社			
所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地			
事業者番号	0602			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,585	kL/年		
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡		
産業分類名 (中分類)	19 ゴム製品製造業			
分類番号 (中分類)	19			
事業活動の概要	事業内容	事業内容：自動車用ゴムホース製造		
	区分	企業		
	前年度	資本金	500	百万円
		従業員数	463	人
商標又は商号 <small>(連鎖化事業者のみ)</small>				

(3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	035001	鬼怒川ゴム工業株式会社 埼玉ホース部品生産部	2,585
合 計			2,585

(4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	埼玉ホース部品生産部 受付
		所在地 1	埼玉県入間市大字新光235番地
		閲覧可能時間 1	9:00~18:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

(5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ホース部品経営管理部	04-2932-1211	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**環境理念**  
 当社は、地球の環境保全が全世界の重要課題であることを認識し、活力ある生活環境を提案する活動を通じて、豊かでゆとりのある社会造りに貢献していきます。

**環境方針**  
 当社は、『きれいな環境 残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用していきます。

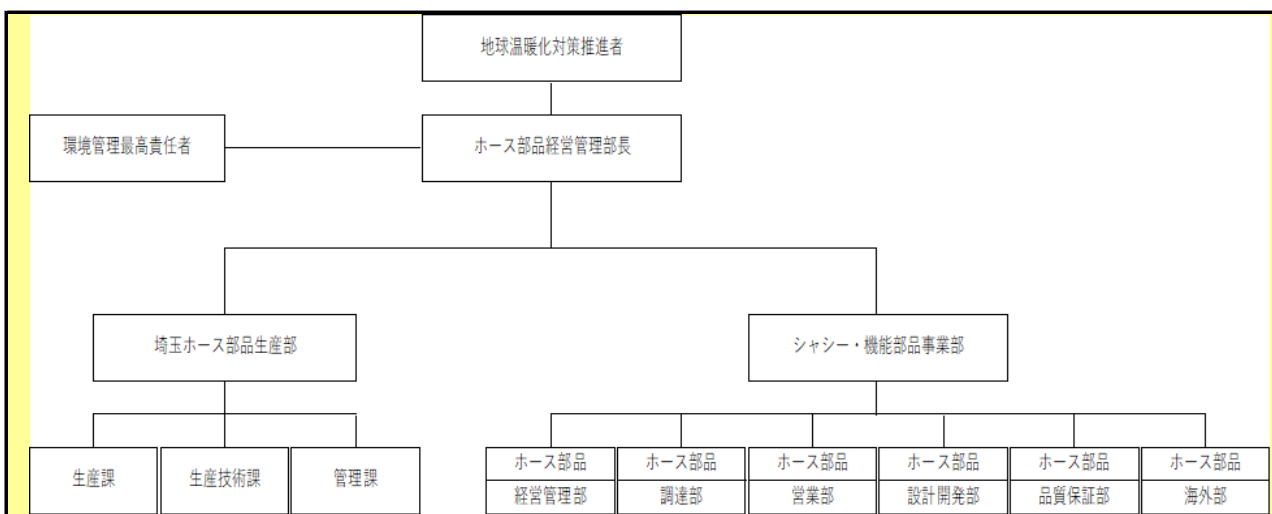
1) 当社の事業活動が地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、継続的な改善を進めながら地球環境の保全に努めます。

2) 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。

3) 関連する法規及び条令、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。

4) 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,078				
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,078				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号

0602

事業所番号

035001

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	鬼怒川ゴム工業株式会社 埼玉ホース部品生産部		
事業所所在地	市区町村	入間市	
	字・地番	大字新光235番地	
産業分類名(中分類)	19 ゴム製品製造業		
分類番号(中分類)	19		
事業活動の概要	事業内容	自動車用ゴムホース製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,464	t-CO <sub>2</sub>	第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	7,366	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,585				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,078				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,078				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.4753				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位	3,442.00				
ゴム使用量					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和1年に対して令和2年のCO <sub>2</sub> 排出量が減少した主な要因としては 生産量の減少(半導体減産影響に伴う客先減産)					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,366	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	7,366	7,366	7,366	7,366	7,366	36,830	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							29,464
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,366
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	5,078					5,078	
	削減率 (F = (A - E) / A)	31.06%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,288					2,288	
各年度の排出量の検証		未実施						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化	R2	R2	
2	490200		その他	49_その他の削減対策	工場屋根の断熱塗装	R2	R2	
3	360700		ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアコンプレッサーのインバーター化	R2	R2	
4	310500		一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	生産工程歩留り向上、生産性向上改善活動(継続)	R2	R2	
5	490200		その他	49_その他の削減対策	老朽化設備更新(LPG気化装置)	R3		
6	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯照明からLED照明への変更	R3		
7	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化	R3		
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社カナオカグラビア			
所在地	東京都台東区台東1丁目32-6			
事業者番号	0603			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	5,359	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	事業内容：プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売 従業員：700名		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	700	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	060300	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	411
B、C事業所			
C	044501	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場	2,318
C	044502	株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場	2,630
合計			5,359

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス	
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	埼玉第二工場
		所在地 1	埼玉県鴻巣市笠原854-1
		閲覧可能時間 1	営業時間8時15分～17時15分の間
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	埼玉第二工場 FSSC推進室	048-543-6211	
2			
3			

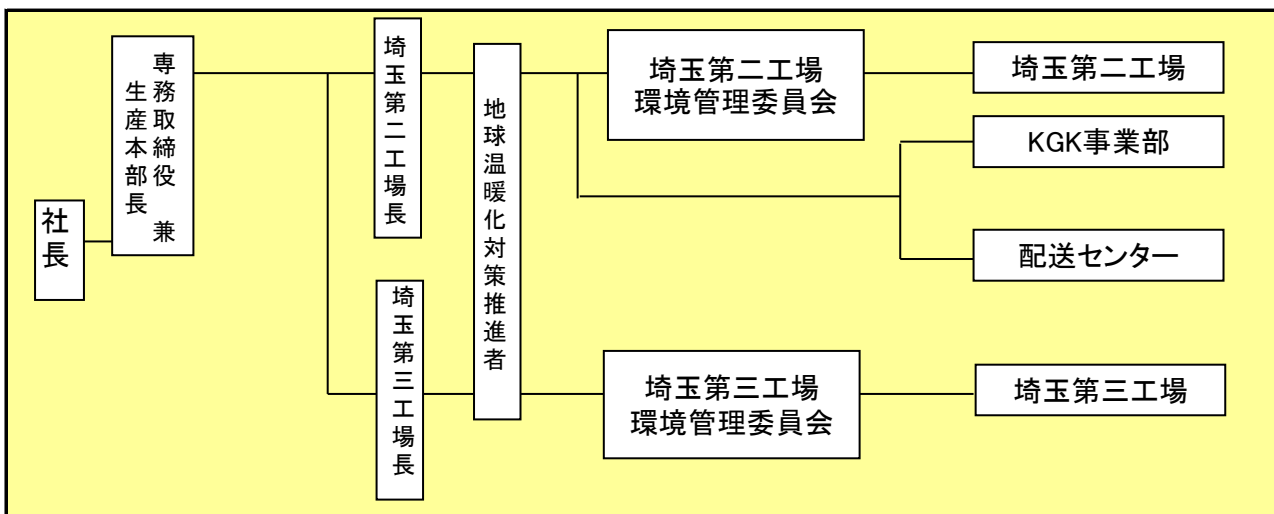
※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境方針  
 株式会社カナオカグラビアは、地域及び地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、事業活動の各段階において環境に対してきめ細かな配慮をし、以下の活動を推進していきます。

1. 環境関連の法規制及び協定その他の合意事項を遵守します。
2. 以下の環境への負荷低減に務め、継続的に改善します。
  - （1）地球温暖化を防止する為の省エネルギー活動
  - （2）省資源化、並びにリサイクル化に取り組み廃棄物の削減
  - （3）揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出削減
3. 本方針を達成するために、環境目標を具体的に定めて実行し、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	10,821				
その他ガス					
温室効果ガスの計	10,821				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0603	事業所番号	060300
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社カナオカグラフィア 埼玉第二工場 KGK事業部	前年度における事業所数	2
代表事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	上谷2115-5	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	製造品：別工場で仕上がったプラスチック加工フィルムの更なる加工。各工場で仕上がった製品の保管、出荷、配送。 従業員：KGK事業部75名、 配送センター47名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	866	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	t-CO <sub>2</sub> /
	2拠点の合計での管理となりますが、一方は製造、もう一方は別拠点を含めた保管・出荷・配送となる。KGK事業部は機械や空調での電気使用。配送センターは照明と空調。パレット洗浄機があるのでガスの使用がある。基準排出量は2019年の数値(866t-CO <sub>2</sub> )とし、これより増えないよう管理する。					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	866	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	基準排出量は2019年の数値(866t-CO <sub>2</sub> )とし、これより増えないよう管理する。					
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 K GK事業部	鴻巣市上谷2115-5
2	株式会社カナオカグラビア 配送センター	埼玉県鴻巣市上谷2129-1
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
411					

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	866	810				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)		6.5				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		810				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	埼玉第二工場、第三工場の売上増に伴い、配送センターの電気使用量は増えたが、排出量の8割以上を占めるK G K事業部の生産数が減った為、2019年度よりも排出量は減った。
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	



4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	KGK事業部2棟ある内の古い棟が全てラビットタイプの蛍光灯だった為、LED化。		R1以前	
2	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	KGK事業部ではH31年2月に事務所にデマンド計を設置。これにより夏場の電気使用量を管理する。		R1以前	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	H27年度にLED化行ったKGK事業部古い棟は新しい棟を建てた事で、使用していなく、もう1棟が一部LED化していない為、そのLED化を予定		R6	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

弊社埼玉エリアで製造した製品の配送業と弊社製品の一部の特殊製品を加工する工場の2つの事業所が対象。

KGK事業部は加工賃払いの工場。一方で配送センターは埼玉第二工場、第三工場、KGK事業部で仕上がった製品の保管、出荷、配送業務を行う事業所です。

KGKは工場なので配送センターの7倍位、電気を使用しており、それに見合った両事業所が共通する原単位がない為、3の(3)の「計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況」は設定出来ません。

令和 3 年度

事業者番号	0603	事業所番号	044501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	笠原854番地1	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	24,104	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	6,026	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,318				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,540				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,540				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.1253				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標	4,034.42				
売上 百万円/年					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>メインの生産機への投入量は前年比103%でした。電気の使用量は対前年97%、ガスの使用量は対前年107%と言う結果でした。          ガスは11月、12月とこの3月が昨対約130%だった為、この3カ月の使用量が足を引っ張った形です。          電気についてはコロナの影響で前半稼働が少し減り、休日出勤をしていた部署が休日出勤を行わなくなった事もあり使用量が減った。          2020年4月頃印刷機導入 (2021年12月末移動)</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	6,026	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	30,130	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							24,104
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							6,026
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	4,540					4,540	
	削減率 (F = (A - E) / A)	24.66%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	1,486					1,486	
各年度の排出量の検証		未実施						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	320400		熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	グラビア印刷で大気に排出されていた、有機溶剤を濃縮し自己燃焼させ、蒸気として熱回収する、環境を配慮した装置の導入により、ガスの使用量を削減		R1以前	
2	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	上記VOC処理装置の効率的運転によりエネルギー削減効果を出す。		R1以前	
3	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の加工設備側には窓は無いが、事務所側にあるの窓に遮光フィルムを貼り、断熱効果に一役		R1以前	
4	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	全熱交換機を導入し、溶剤使用室内のクリーンな空気だけを内循環出来る省エネ設備を導入		R1以前	
5	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	防爆照明以外の照明をLED化		R1以前	
6	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3階の製袋機エリアの古い大型パッケージエアコンを最新の高効率エアコンに入れ替え	R2	R2	
7	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3階の製版エリアでまだ古いパッケージエアコンが2台ある為、高効率のものへ変更予定	R6		
8	490200		その他	49_その他の削減対策	電気購入会社を調整後排出係数が0.37t-CO2/千kWh以下の低炭素電力事業者に変更する。	R4		
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

## 【令和3年度】

新しい工場を建てる為、その工場で働く人員を採用しており、一部の部署で土日稼働を始め出した。他の部署も逐次追加で土日稼働を開始して行く。土日は機械がフルで回せる人員がない為、フル稼働は出来ず、空調は非効率な稼働になってしまう。その為、この年度は排出量は増えるであろう。



令和 3 年度

事業者番号	0603	事業所番号	044502
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場		
事業所所在地	市区町村	羽生市	
	字・地番	川崎一丁目371番地15	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,692	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	7,423	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,630				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,471				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,471				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.5448				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標	3,541.49				
単位 売上 百万円/年					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	印刷・ラミネートの大型機械が入る1階は空調はボイラーが熱源となるが、2019年度までは暖房から冷房に切り替わる季節において効率の悪い使用を行っていた。2020年度から季節の切り替え方法を見直しを行いガスの使用量が4月、5月はかなり減った。 VOC処理装置を熱源とする廃熱ボイラー設備が老朽化してきた事もあり、12月に修理を行った事で、この設備の稼働が良くなり、2月以降もガスの使用量が大きく減った。 2021年2月に「新テント 600㎡」増加した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,423	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	7,423	7,423	7,423	7,423	7,423	37,115
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						29,692
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						7,423
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	5,471					5,471
	削減率 (F = (A - E) / A)	26.30%					—
	排出削減量 (G = A - E)	1,952					1,952
各年度の排出量の検証		未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	320400		熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	設立からグラビア印刷で大気に排出されていた、有機溶剤を濃縮し自己燃焼させ、蒸気として熱回収する、環境を配慮した装置の導入により、ガスの使用量を削減		R1以前	
2	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	上記VOC処理装置の効率的運転によりエネルギー削減効果を出す。		R1以前	
3	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の加工設備側には窓は無いが、事務所側にあるの窓に遮光フィルムを貼り、断熱効果に一役		R1以前	
4	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	防爆照明以外の照明をLED化		R1以前	
5	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	全熱交換機を導入し、溶剤使用室内のクリーンな空気だけを内循環出来る省エネ設備を導入		R1以前	
6	320300		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	VOC処理装置から廃熱ボイラーに繋がる一連の設備の老朽化の部品を交換し、効率改善を行う予定		R2	R2
7	490200		その他	49_その他の削減対策	電気購入会社を調整後排出係数が0.37t-CO2/千kWh以下の低炭素電力事業者に変更する。		R3	
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 湖池屋		
所在地	東京都板橋区成増5丁目9-7		
事業者番号	0604		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	9,559	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の 概要	事業内容	スナック菓子（主にポテトチップス）製造・販売	
	区分	企業	
	前年度	資本金	2,269 百万円
		従業員数	858 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	013801	株式会社湖池屋 関東工場	9,559
合 計			9,559

（4）公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	https://koike-ya.com/csr/index.html
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲 覧 場 所 1	株式会社湖池屋 マーケティング部 広報課
		所 在 地 1	東京都板橋区成増5-9-7
		閲 覧 可 能 時 間 1	9:00～16:00（土日祝日除く）
		閲 覧 場 所 2	株式会社湖池屋 関東工場 総務課
		所 在 地 2	埼玉県加須市久下1615
		閲 覧 可 能 時 間 2	9:00～16:00（土日祝日除く）
	その他		

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本社マーケティング部広報課	080-3582-2708	
2	関東工場総務課	0480-65-1064	
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

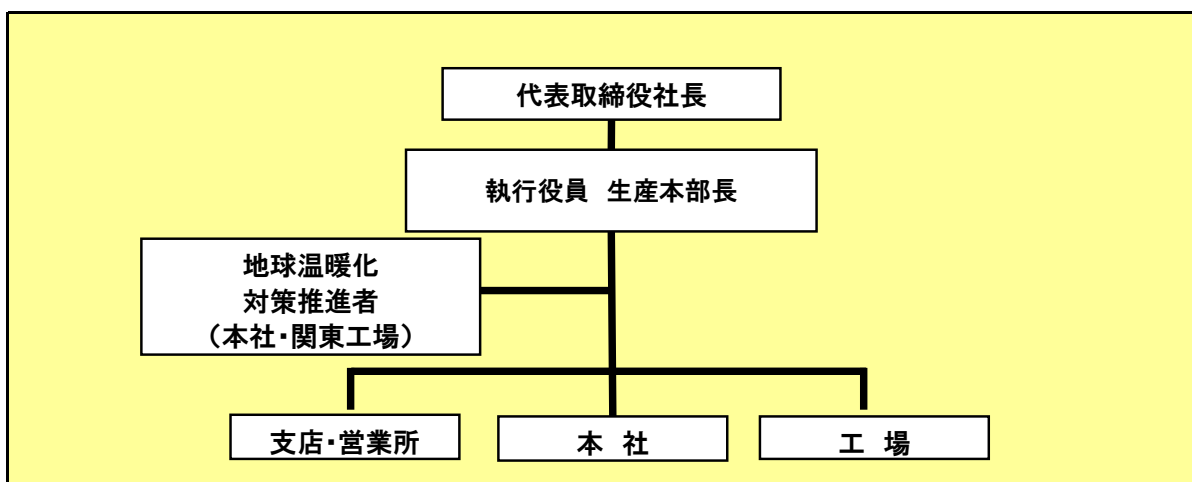


2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

グループ環境行動指針

1. 環境関連法規及びその他の要求事項を遵守するとともに、自主基準を設定し、事業活動に取り組みます。
  2. 事業活動による廃棄物の削減及び再資源化、省資源、省エネルギーを推進するとともに、地球環境に負荷を与える物質の削減に取り組みます。
  3. 環境に配慮した原料・資材調達、商品開発、生産に努めます。
  4. 環境保全のための社会貢献活動に取り組みます。
  5. 環境教育を通じ、環境保全に対する意識向上を図るとともに、全社員が環境意識を持って行動します。
- 環境行動指針に準拠し、民生部門の削減行動、産業部門の設備投資により省エネルギーに取り組み、温室効果ガス排出量の削減に結びつけます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	18,601				
その他ガス					
温室効果ガスの計	18,601				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0604	事業所番号	013801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社湖池屋 関東工場		
事業所所在地	市区町村	加須市	
	字・地番	久下1615番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容：スタック菓子(主にポテトチップス)製造・販売 従業員数：720名(平成31年6月末現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し削減計画期間の平均削減率目標を25%とする。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	81,324	t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)	20,331	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	9,559				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	18,601				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	18,601				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.0875				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標	単位				
生産量	t/年	17,105.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三工場稼働開始による床面積、生産ラインの増加</li> <li>・対昨年で生産出来高12%増、稼働時間6.6%増</li> </ul>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	20,331	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	20,331	20,331	20,331	20,331	20,331	101,655	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							81,324
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							20,331
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	18,601					18,601	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	8.51%					—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,730					1,730	
各年度の排出量の検証		未実施						

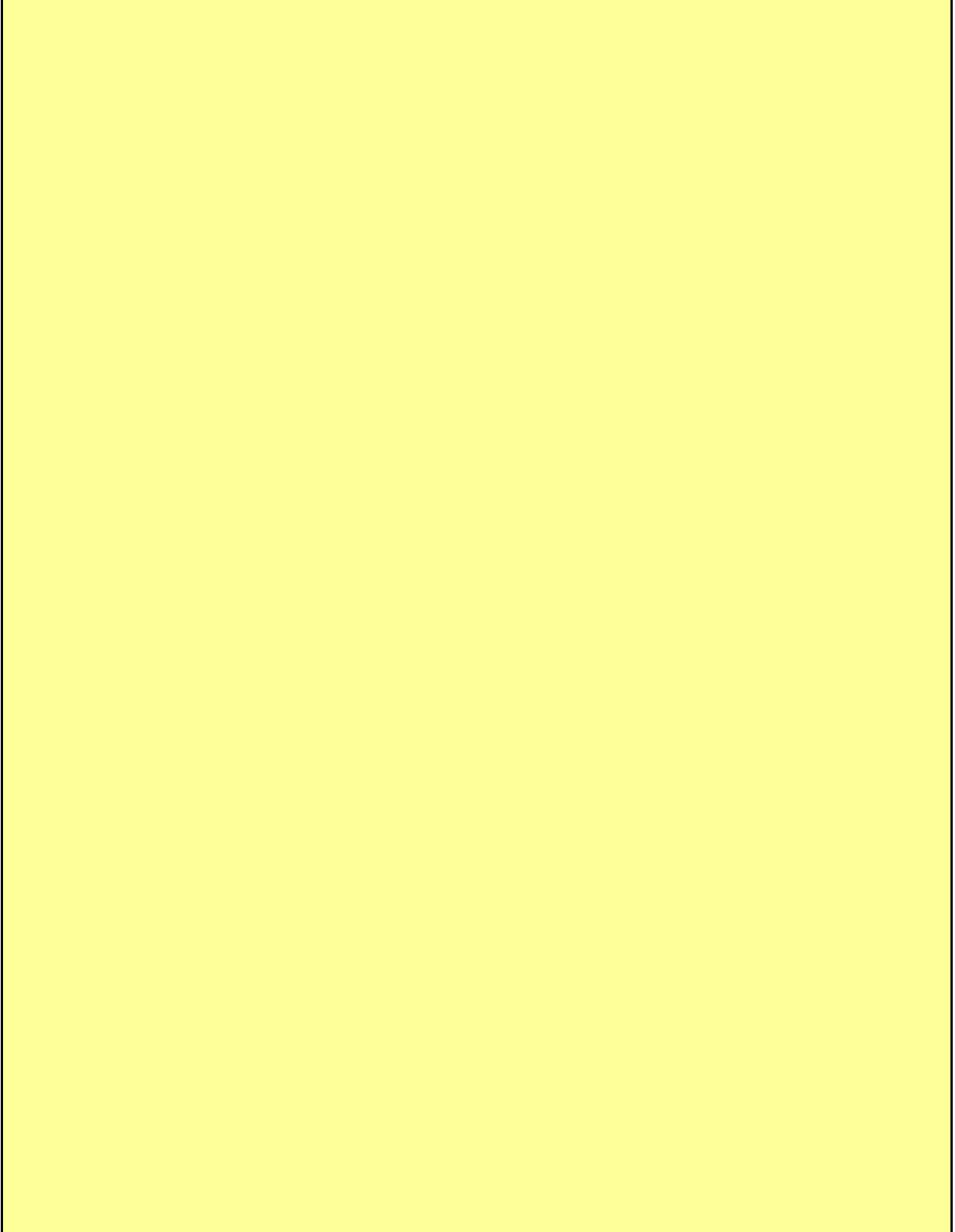
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	人感センサー等による在室検知制御の 導入	R4	5.0
2	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明器具のLED化	R4	50.0
3	330200		空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調調和設備の更新(効率の向上)	R4	20.0
4	330200		空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	屋上屋根への断熱塗料の塗布	R4	10.0
5	330200		空調調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	日照調整フィルムの貼り付け	R4	5.0
6	329900		ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	コンテナ殺菌機表面の断熱強化	R4	10.0
7	329900		ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	スチームトラップの点検・清掃及び更 新	R4	10.0
8	340500		発電専用設 備、コージェ ネレーション 設備	34_熱の動力等への 変換の合理化に関 する措置	ガスコージェネレーションシステム導 入による消費エネルギー削減	R1以前	R1以前
9	320200		ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	L2-Tech認証設備の導入	R1以前	R1以前
10	360700		ポンプ、ファ ン、ブロー ャー、コンプレ ッサー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	効率の良い設備の導入もしくは更新	R4	65.0
11	329900		ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	ボイラーブローの排熱の有効活用	R4	2.7
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 プレナスフーズ			
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町大字深輪398-12			
事業者番号	0605			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	2,619	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の概要	事業内容	食料品の加工・販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	50	百万円
		従業員数	420	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				



（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	060501	株式会社プレナスフーズ CENTOS	2,619
合 計			2,619

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 株式会社 プレナスフーズ
		所在地 1 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字深輪398-12
		閲覧可能時間 1 午前9:00～午後4:30、月～金(祝日を除く)
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	設備技術部	0480-36-7228	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**(1) 目的**

- ・循環型社会推進における環境法令に対応することで企業責任を果たす
- ・企業全体の環境負荷や取り組みを把握し、企業価値向上に向けてステークホルダーに発信する

**(2) 対象課題**

- ①CO<sub>2</sub> 排出量削減対策
- ②プラスチック対策（レジ袋、プラスチック容器関連）
- ③食品ロス削減・食品リサイクル対策

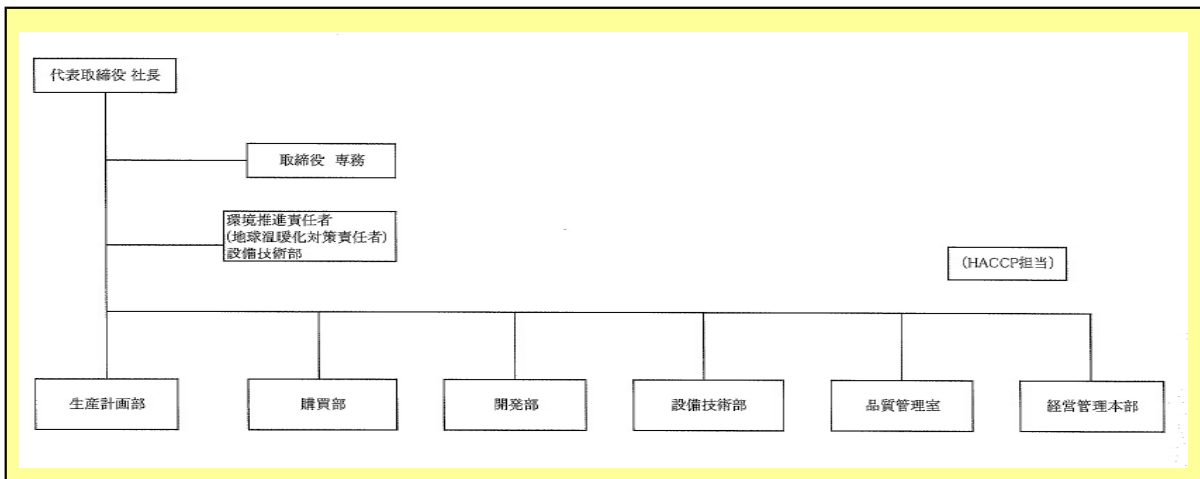
**(3) 対象範囲**

プレナス及びプレナスグループ会社  
 ※まずは国内で取り組み、国外の取り組み是非については確認必要

**(4) 取り組み概要**

- ①全社環境負荷数値の把握、自社環境法令対応の状況確認
- ②対象課題への取り組み
- ③取り組みの開示（持続可能な社会への貢献、企業価値の向上）

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,383				
その他ガス					
温室効果ガスの 合 計	5,383				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0605	事業所番号	060501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社プレナスフーズ CENTOS		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡杉戸町	
	字・地番	大字深輪398-12	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業所内容 冷凍調理食品製造業 精米	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和元年度のCO <sub>2</sub> 排出量4,809 t-CO <sub>2</sub> を基準として、令和2及び3年度の排出量を2%以上削減します。令和4年度からは、C事業所になる見込みであるため、令和元年度を当面の基準として、令和4～6年度の排出量を6%以上削減します。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
2,619					

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	5,383				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	5,383				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1855				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	t/年	29,022.00			

（4）エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
調温庫設備の増設、生産量の増加、生産時間の延長						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

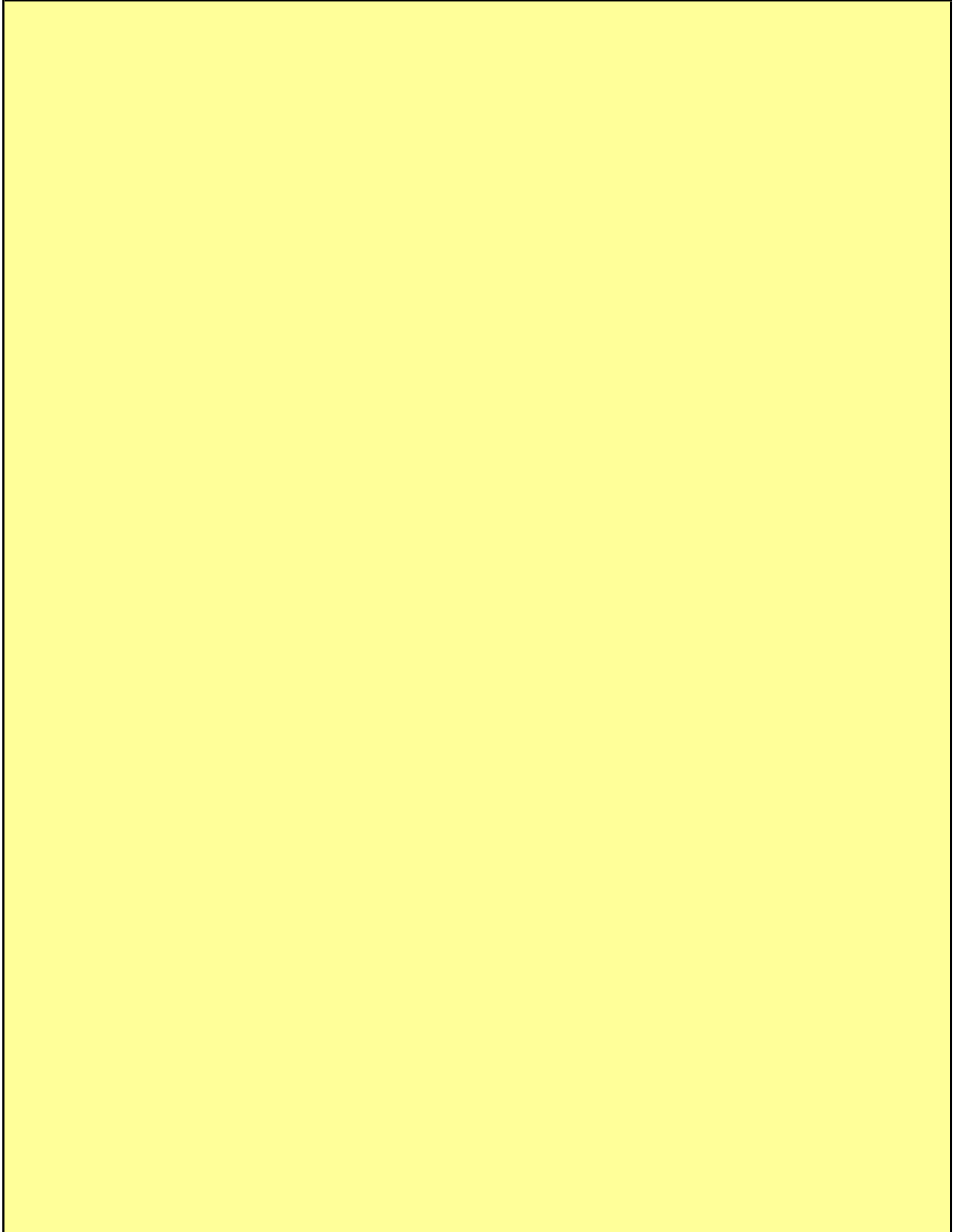
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	地球温暖化対策に関わる推進組織の整備	R3	R2	
2	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラー2台稼働から1台稼働に変更	R3	R2	20.0
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	生産停止日のボイラー稼働停止	R3	R2	20.0
4	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気バルブに保温材の設置	R3		10.0
5	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	外調機のデマンド制御	R3		40.0
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	佐川印刷株式会社			
所在地	京都府向日市森本町戊亥5番地の3			
事業者番号	0607			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	1,202	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の概要	事業内容	商品カタログ・パンフレット等商業印刷物の総合企画制作、印刷・製本加工・組版・製版 等		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	2,084	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				



（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	060700	佐川印刷株式会社 越谷工場	107
B、C事業所			
C	052301	佐川印刷株式会社 松伏工場	1,095
合 計			1,202

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	松伏工場 総務課	048-991-4520	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

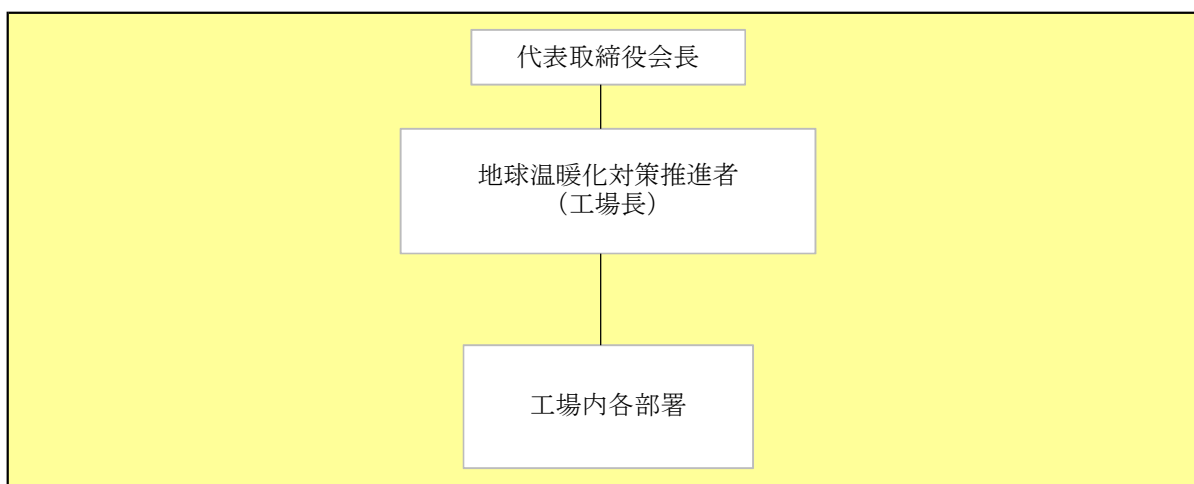
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

佐川印刷は、地球温暖化防止・環境改善に力を入れており、再生紙の使用、CTP導入によるフィルムレス（資源保護）など、さまざまな活動に取り組んでいます。

【資源使用量の低減と廃棄物低減の継続】

私たちは、生産活動において生じる環境汚染要因、資源の使用量、再資源化されない、排出物の排出量の低減を図るため、目的・目標を定め継続的に環境保全活動を展開します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,364				
その他ガス					
温室効果ガスの計	2,364				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0607	事業所番号	060700
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	佐川印刷株式会社 越谷工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	越谷市	
	字・地番	西方2639-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	製本加工・アッセンブリー業務 主な設備：製本設備、立体倉庫		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	827	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス	第2計画期間に引き続き可能な限りの対策を講じ、平成26年度の排出量(827t-CO <sub>2</sub> )を基準として、令和6年度末までに15%の削減努力を継続します				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	佐川印刷株式会社 越谷工場	越谷市西方2639-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	107				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	基準 827	211				
	前年度比 (%)	—				
	基準となる排出量に対する削減率 (%)	74.5				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		211				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	基準	3.8364				
	前年度比 (%)	—				
	基準となる原単位に対する削減率 (%)					
活動規模の指標	単 位					
	出荷額 百万円/年	55.00				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	生産ラインの縮小により、CO <sub>2</sub> 排出量が大幅に減少したと考えられる。
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

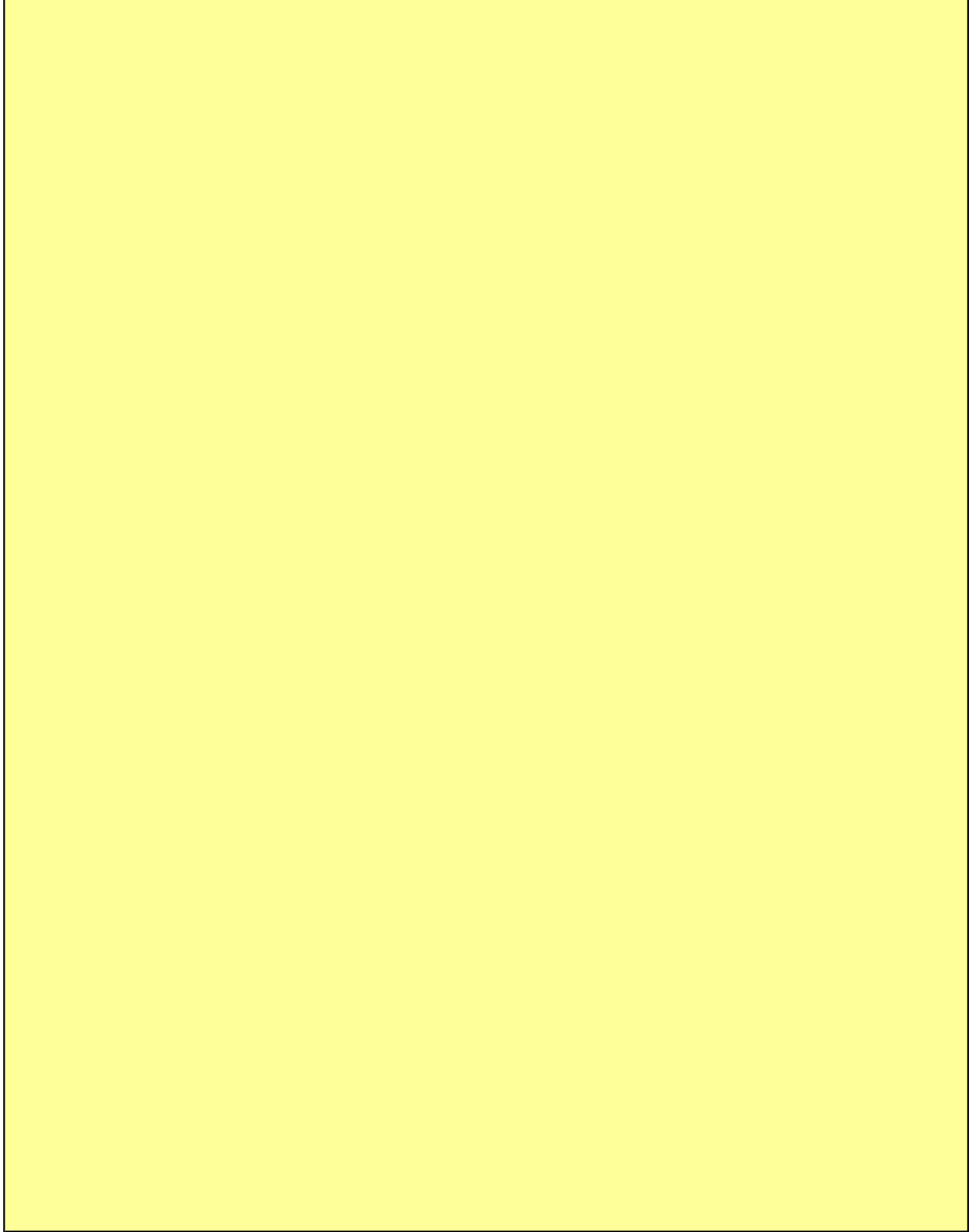
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	未使用場所の消灯 <第3計画も継続>		R1以前	80.0
2	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調温度管理および機器点検 <第3計画も継続>		R1以前	40.0
3	310200	一般管理事 項	31_主要設備等の保 全管理	設備の保守管理 <第3計画も継続>		R2	60.0
4	370700	電動応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	生産ライン縮小による電気動力の抑制		R3	80.0
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 3 年度

事業者番号	0607	事業所番号	052301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	佐川印刷株式会社 松伏工場		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡松伏町	
	字・地番	大字田島東3番地2	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	紙媒体の印刷及び製本 主な設備：オフセット輪転印刷機(両面4色刷機) 製本加工設備(中綴機、折加工機) 巻取自動立体倉庫等	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減対象期間の平均削減率を20%とします。 (必要に応じて排出量取引を活用します)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,652	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	4,913	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,095				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	2,153				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,153				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	5.6958				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
出荷額	百万円/年	378.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により印刷受注量が減少。</li> <li>・オフリン1号機の更新による、電力使用量削減とCO<sub>2</sub>排出量の減少。</li> <li>・2階共有スペース・事務室等を蛍光灯からLEDに交換。</li> </ul>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,913	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,913	4,913	4,913	4,913	4,913	24,565
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						19,652
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						4,913
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	2,153					2,153
	削減率 (F = (A - E) / A)	56.18%					—
	排出削減量 (G = A - E)	2,760					2,760
各年度の排出量の検証		未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	未使用場所の消灯 <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0
2	350600		受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気 の損失の防止に關する措置	デマンド装置によるピーク電力管理 昼休みシフトによるピーク電力抑制 <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0
3	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転印刷機更新による合理化 (A輪1台) <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0
4	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転印刷機更新による エネルギー使用量削減	R2	150.0
5	330200		空調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調設備更新後の効率的な運用 <第3計画期間も継続>	R1以前	50.0
6	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転課コンプレッサーの効率的運用 ・インバーター機能の活用/咄嗟圧力 調整<第3計画期間も継続>	R1以前	70.0
7	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	チラー更新による合理化	R1以前	70.0
8	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新(非常灯) <第3計画期間も継続>	R1以前	120.0
9	490200		その他	49_その他の削減対 策	外壁補修・塗装による断熱効果 天窓補修による換気改善 <第3計画期間も継続>	R1以前	100.0
10	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエン ネルギー管理	生産体制の管理強化と効率的な機械稼 働	R2	200.0
11	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転1号機更新による エネルギー使用量削減	R2	80.0
12	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転3号機更新・4号機廃止による エネルギー使用量削減	R3	148.0
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場			
所在地	埼玉県北本市中丸9丁目55番地			
事業者番号	0608			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	4,444	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の概要	事業内容	2011年1月11日 関東グリコ株式会社として創立 2020年7月1日 グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社に吸収合併され、同北本工場となる 事業内容：菓子（ポッキー、プリッツ等）の製造 その他：見学者施設を併設		
	区分	企業		
	前年度	資本金	80	百万円
		従業員数	600	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	051401	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場	4,444
合 計			4,444

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	弊社応接室
		所在地 1	埼玉県北本市中丸9丁目55番地
		閲覧可能時間 1	9：00～17：00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ファクトリーイノベーション推進課	048-593-8209	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）



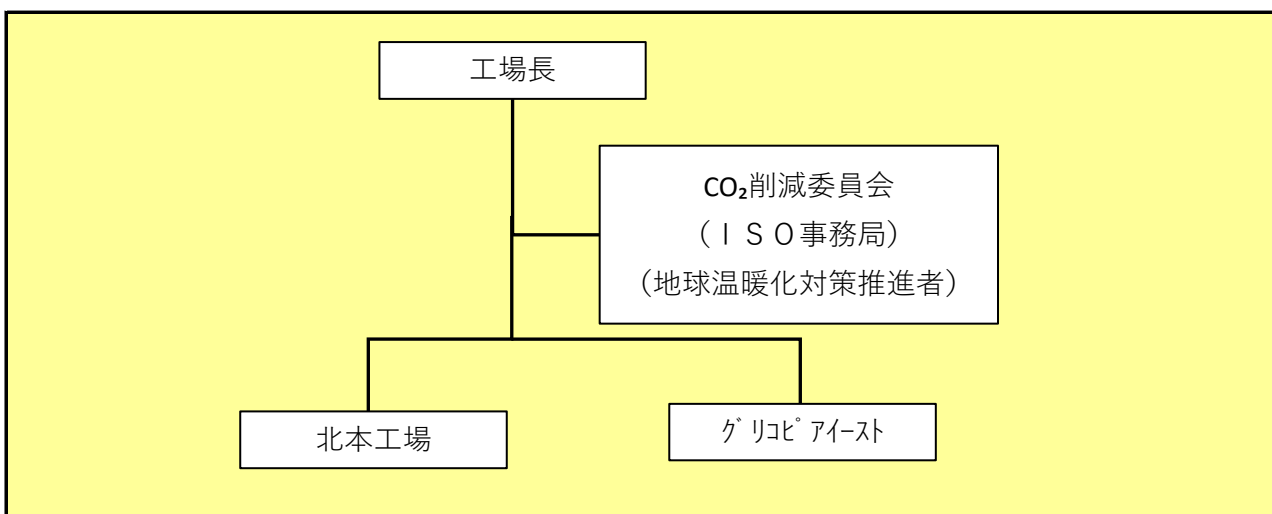
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

グリコグループ環境方針  
 地球規模での自然保護や豊かな人間性の回復へと向かう現代において、わたしたちは、グリコグループノ企業理念である「おいしさと健康」のもと、環境にやさしい企業活動を推進していきます。

1. わたしたちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。

2. わたしたちは、環境汚染や地球温暖化の防止に取り組み、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	8,732				
その他ガス					
温室効果ガスの計	8,732				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0608	事業所番号	051401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ケリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場		
事業所所在地	市区町村	北本市	
	字・地番	中丸9丁目55番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	創立：2020年7月1日(関東グリコを吸収合併) 工場稼働：2011年10月 事業内容：菓子製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、2～5年度の平均削減率をトップレベル認定後の6.5%以上、6年度は10%以上とする。必要に応じて排出量取引を利用する。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	44,047	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	5,893	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,444				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	8,732				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	8,732				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.5332				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位	16,377.80				
生産量					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	蛍光灯をLEDへ更新 666台 照度過剰による間引き 139台 外灯のLED化 51台 アンローダ式コンプレッサー75kwのインバータ式75kwへの更新					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,988	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	9,988	9,988	9,988	9,988	9,988	49,940
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定	トップレベル	トップレベル				
	目標削減率 (B)	6.50%	6.50%	13.00%	13.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A - D$ )						44,047
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						5,893
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	8,732					8,732
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	12.58%					—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,256					1,256
各年度の排出量の検証		実施済					

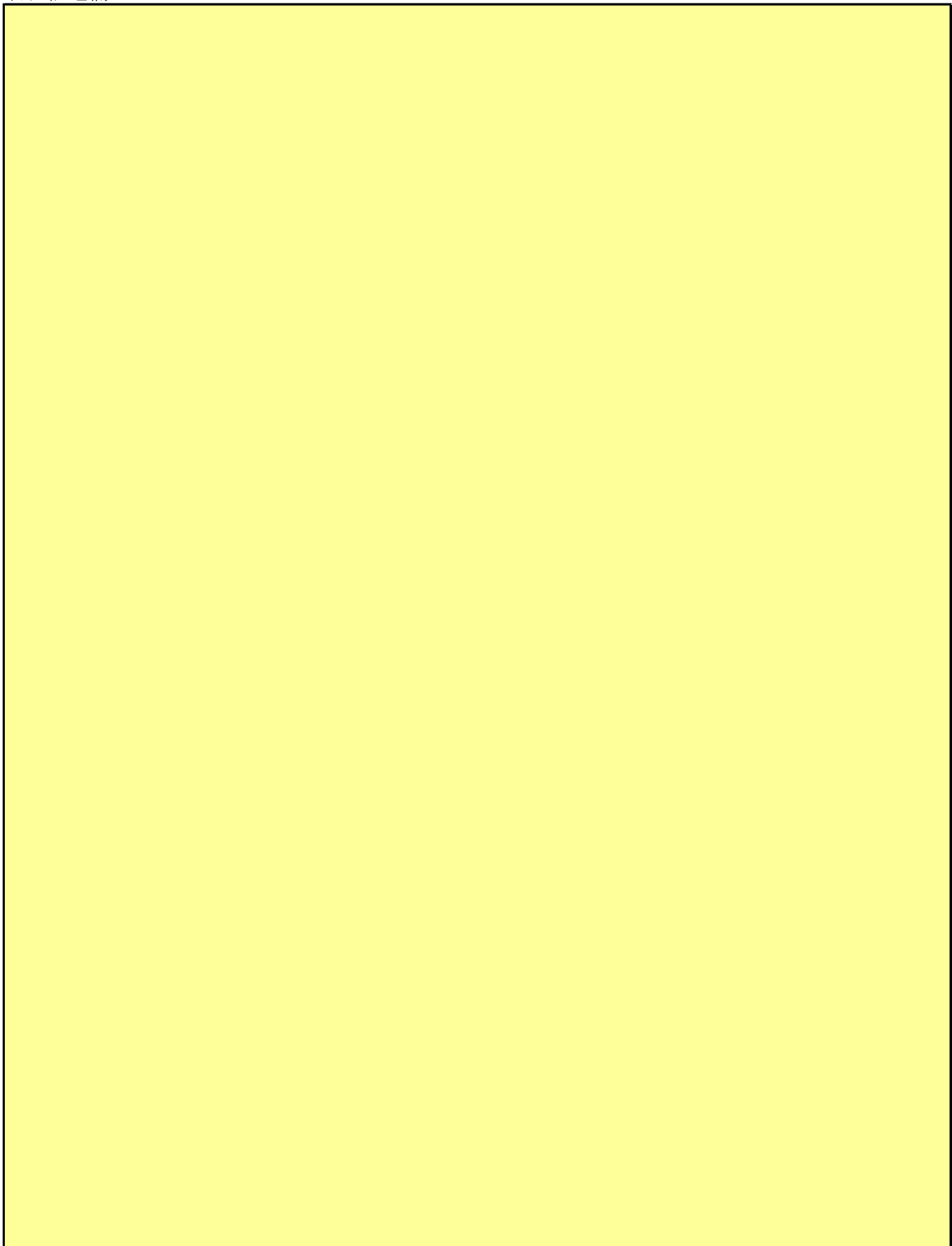
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R1以前	R1以前	17.0
2	410700	事務用機器	41_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	デンジセーブ導入	R1以前	R1以前	14.0
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R1以前	R1以前	30.0
4	410700	事務用機器	41_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	デンジセーブ追加導入	R1以前	R1以前	14.0
5	490200	その他	49_その他の削減対策	遮熱フィルムによる見学施設空調負荷低減	R1以前	R1以前	3.5
6	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	外灯(ナトリウム灯)のLEDへの更新	R1以前	R1以前	5.0
7	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率駆動ベルトへの更新	R1以前	R1以前	10.0
8	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーター式コンプレッサーへの更新	R1以前	R1以前	3.0
9	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R2	R2	72.4
10	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーター式コンプレッサーへの更新	R2	R2	10.0
11	490200	その他	49_その他の削減対策	遮熱フィルムによる見学施設空調負荷低減	R2	R2	2.0
12	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R3		51.0
13	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーター式コンプレッサーへの更新	R3		10.0
14	490200	その他	49_その他の削減対策	遮熱フィルムによる見学施設空調負荷低減	R3		2.0
15	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	コンプレッサー排熱の温水余熱利用	R3		20.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	双日株式会社			
所在地	東京都千代田区内幸町二丁目1番1号			
事業者番号	0609			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,619	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	69 不動産賃貸業・管理業(テナントビルを含む)			
分類番号 (中分類)	69			
事業活動の 概要	事業内容	【事業内容】総合商社として、自動車やプラント、航空、医療インフラ、エネルギー、金属資源、化学品、食料、農林資源、消費財、工業団地などの各分野において、物品の販売及び貿易業をはじめとして、国内および海外における各種製品の製造・販売やサービスの提供、各種プロジェクトの企画・調整、投資、ならびに金融活動などグローバルに多角的な事業を実施。		
	区分	企業		
	前年度	資本金	160,339	百万円
		従業員数	2,608	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				



（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	040601	ニットーモール	1,619
合 計			1,619

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	ニットーモール
		所在地 1	熊谷市銀座2-245
		閲覧可能時間 1	午前11時から午後5時
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

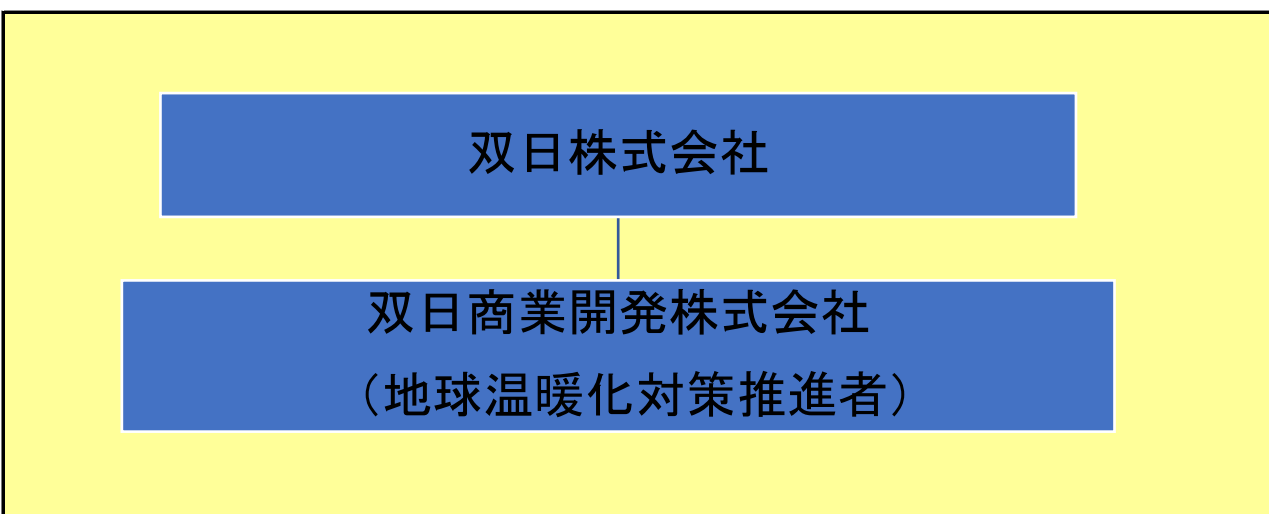
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ニットーモール管理事務所	048-522-4011	kumagaya-staff@sojitz-sc.com
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球温暖化対策がグローバルな進展を見せるなか、地域社会においても、消費、物流、ライフスタイル等に多大な影響を与える重大な問題としてとらえ、環境に優しい施設運営を目指し、環境負荷の低減を図り豊かな社会の創造に貢献する

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,179				
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,179				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0609	事業所番号	040601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ニッソーモール		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	銀座二丁目245番地	
産業分類名(中分類)	56 各種商品小売業		
分類番号(中分類)	56		
事業活動の概要	事業内容	各種商品小売業。従業員数約800名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	削減計画期間の平均削減率を基準排出量の22%以上とします。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	25,556	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(1)		
	削減目標量(計画期間合計)	7,209	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,619				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,179				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,179				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0641				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位					
床面積	49,624.55				
	m <sup>2</sup>				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	緊急事態宣言等による、休業・時短営業により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	6,553	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	6,553	6,553	6,553	6,553	6,553	32,765
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						25,556
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						7,209
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	3,179					3,179
	削減率 (F = (A - E) / A)	51.49%					—
	排出削減量 (G = A - E)	3,374					3,374
各年度の排出量の検証		未実施					

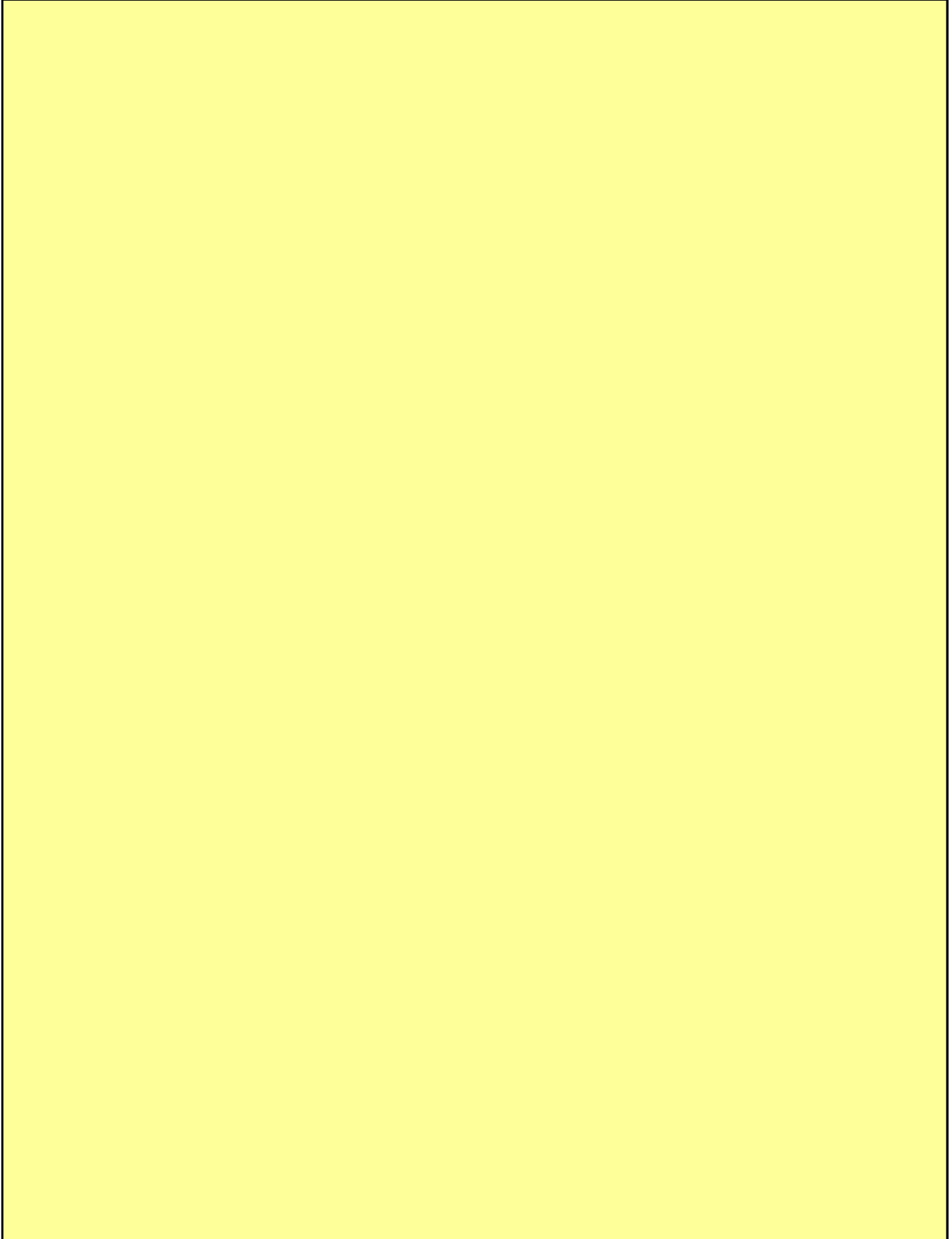
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	エネルギー使用量の数値の把握 (第3計画期間継続中)		R1以前	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	専門店従業員に対する省エネ教育の実施 (第3計画期間継続中)		R1以前	
3	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化に関する推進組織の整備 (第3計画期間継続中)		R1以前	
4	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調設定温度の適正化 (第3計画期間継続中)		R1以前	
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調外気取り入れ量の適正化 (第3計画期間継続中)		R1以前	
6	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	外気冷房の導入と冷温水発生器の台数制御 (第3計画期間継続中)		R1以前	
7	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	適性照度の管理 (間引き含む) (第3計画期間継続中)		R1以前	
8	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	共用部照明LED化		R1以前	
9	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機給気ファンモーターインバーター制御導入		R1以前	
10	120100	熱源設備・熱搬送設備	12_燃焼設備の管理	熱源設備の更新検討		R3	
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社王将フードサービス		
所在地	京都市山科区西野山射庭ノ上町294-1		
事業者番号	0610		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,590	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>	
産業分類名 (中分類)	76 飲食店		
分類番号 (中分類)	76		
事業活動の 概要	事業内容	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開	
	区分	企業	
	前年度 資本金	8,166	百万円
	前年度 従業員数	2,256	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)	餃子の王将		

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061000	餃子の王将 今羽駅前店	793
B、C事業所			
C	061001	株式会社王将フードサービス 東松山工場	1,797
合 計			2,590

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	東松山工場
		所在地 1	東松山市大字新郷404番地
		閲覧可能時間 1	9:00~17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

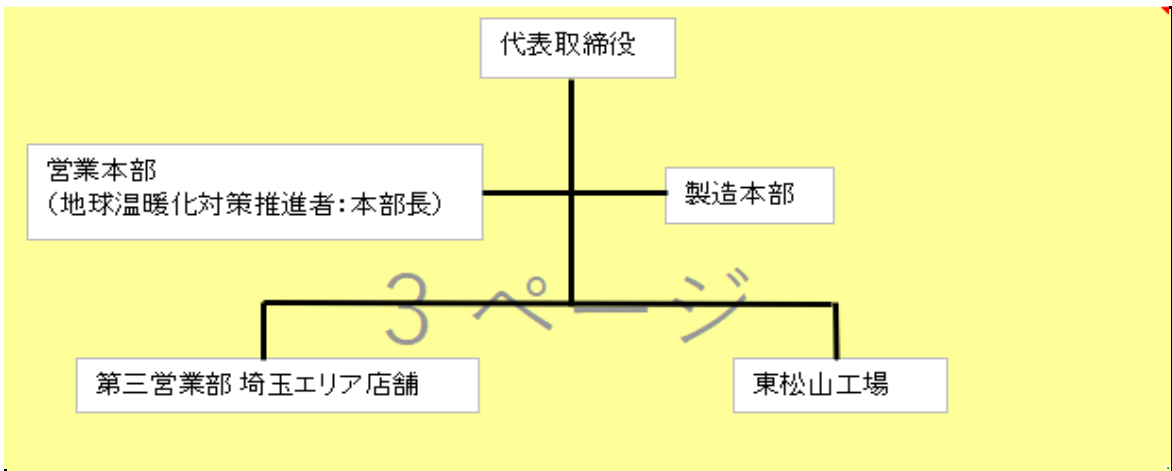
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境問題対策課	075-592-1411	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境問題全般に対して積極的に対応していく。温暖化防止対策としては消費電力の少ない高効率機器や省電力化に寄与する設備の導入を積極的に推し進める。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,097				
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,097				

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0610	事業所番号	061000
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	餃子の王将 今羽駅前店	前年度における事業所数	28
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市北区	
	字・地番	吉野町1-17-5	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	76 飲食店		
分類番号(中分類)	76		
事業活動の概要	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	1.2789 t-CO <sub>2</sub> /席
	令和1年度排出量原単位を基準として毎年1%ずつ改善していきます。				
削減目標	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
削減目標	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	餃子の王将 今羽駅前店	さいたま市北区吉野町1-17-5
2	その他別添参照	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	793				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		1,575				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		1,575				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.2789	1.2069				
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)		5.6				
活動規模の指標	単位	1,305.00				
客席数	席					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	新型コロナウイルス蔓延で営業時間短縮などが影響し排出量の減少につながった。
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	空調設備の更新	R3		
2	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	L E D照明の設置	R3		
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

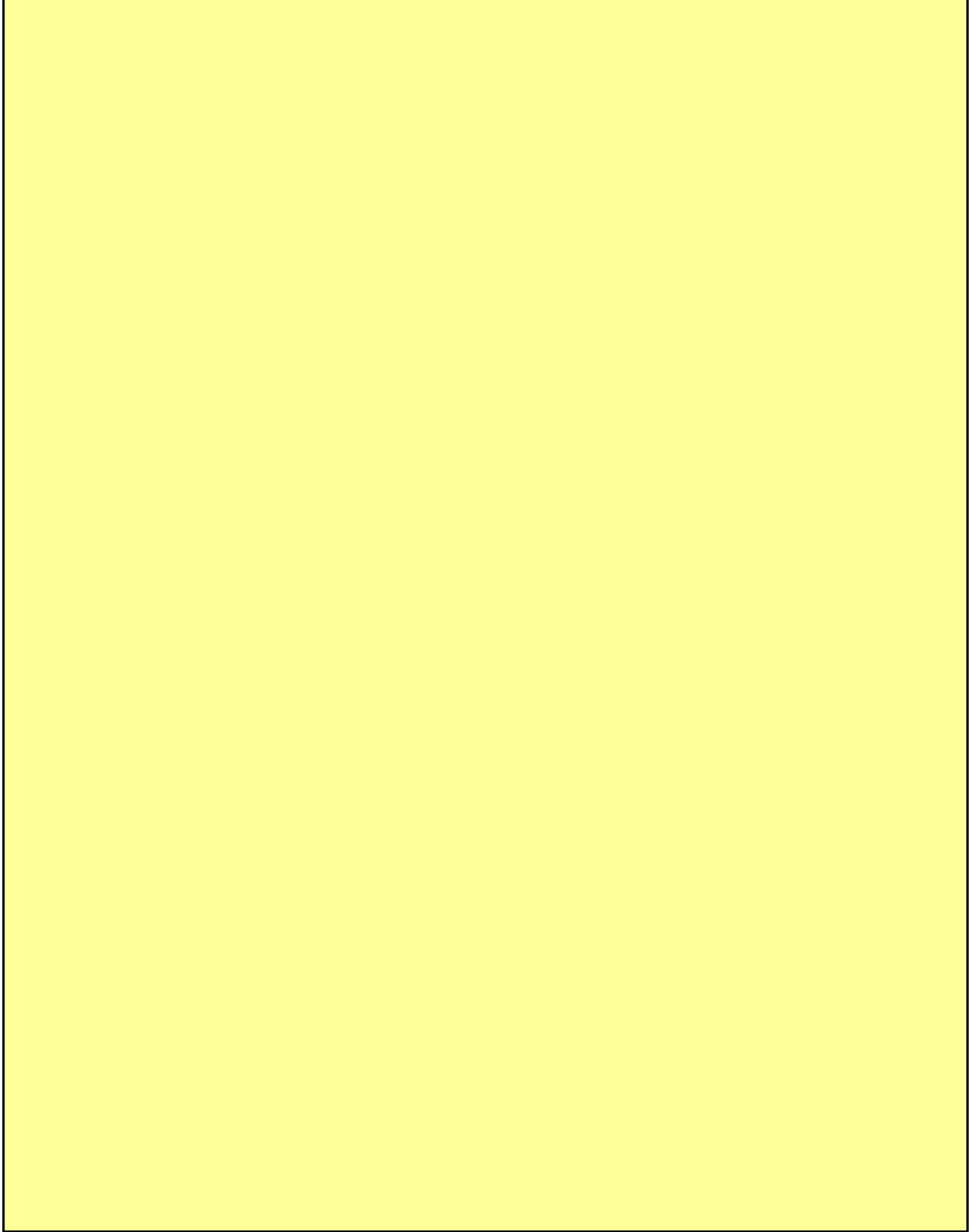


## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

事業者番号	0610	事業所番号	061001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社王将フードサービス 東松山工場		
事業所所在地	市区町村	東松山市	
	字・地番	大字新郷404番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を令和2年度~4年度は6%、令和5年度~6年度は13%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,895	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	1,920	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,797				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,522				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,522				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.8078				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位					
餃子生産量	t	4,360.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍ではあったが、中食需要の高まりにより工場の減産はなかったため排出量は微増した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,363	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,363	4,363	4,363	4,363	4,363	21,815
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						19,895
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						1,920
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,522					3,522
	削減率 (F = (A - E) / A)	19.28%					—
	排出削減量 (G = A - E)	841					841
各年度の排出量の検証		未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	490200	その他	49_その他の削減対策	空調用の地中熱利用設備の導入	R3		
2	490200	その他	49_その他の削減対策	自家消費用太陽光発電システム	R3		
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明の設置	R3		
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

	店舗名	市	区町番地
記載済み	今羽駅前	さいたま市	北区吉野町1-17-5
2	東大成	さいたま市	北区東大成町2-488-6
3	大宮駅西口	さいたま市	大宮区桜木町2-5-7
4	大宮三橋	さいたま市	大宮区三橋4-15-1
5	与野本町	さいたま市	中央区鈴谷9-6-15
6	南浦和	さいたま市	南区南浦和3-8-1
7	武蔵浦和駅前	さいたま市	南区別所7-6-33
8	大宮南中野	さいたま市	見沼区南中野92-5
9	春日部ユリノキ通り	春日部市	豊町4-1-9
10	本川越	川越市	新富町1-1-12
11	熊谷駅東口	熊谷市	筑波3-153-4
12	アリオ川口フードコート	川口市	並木元町1-79
13	アリオ川口レストラン	川口市	並木元町1-79
14	三郷西インター	三郷市	天神1丁目503-5
15	小手指	所沢市	小手指町1丁目8
16	所沢プロペ通り	所沢市	日吉町8-5 フジノビル1階
17	ヤオコー東松山	東松山市	新宿町17-1
18	ふじみ野	ふじみ野市	うれし野1丁目3-8
19	アリオ上尾	上尾市	大字壺丁目367番地
20	草加	草加市	花栗3-20-40
21	北越谷駅西口	越谷市	北越谷4丁目21-4
22	越谷駅東口	越谷市	弥生町16-1 越谷ツインシティ Bシティ1階
23	南越谷ラクーン	越谷市	南越谷1丁目15-1
24	蕨駅東口	蕨市	塚越1-3-2
25	戸田公園五差路	戸田市	上戸田3-10-8
26	北朝霞	朝霞市	浜崎1-12-1
27	和光	和光市	丸山台1-9-3
28	新座駅前	新座市	野火止5-3-11



令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	日立Astemo株式会社			
所在地	茨城県ひたちなか市高場2520番地			
事業者番号	0611			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	6,915	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	31 輸送用機械器具製造業			
分類番号 (中分類)	31			
事業活動の 概要	事業内容	自動車部分品及び輸送用並びに産業用機械器具・システムの 開発、製造、販売及びサービス		
	区分	企業		
	前年度	資本金	51,500	百万円
		従業員数	30,100	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
Bテナント等	061101	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場	1,666
B、C事業所			
C	023301	日立Astemo株式会社 埼玉第一工場	5,249
合 計			6,915

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 日立Astemo(株) 埼玉第一工場
		所在地 1 埼玉県行田市藤原町一丁目14番地1
		閲覧可能時間 1 9:00~16:00 (土、日、祝日を除く)
		閲覧場所 2 日立Astemo(株) 埼玉第二工場
		所在地 2 埼玉県比企郡滑川町都25-10
		閲覧可能時間 2 9:00~16:00 (休日を除く)
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	保全課	048-554-1151	
2	人事総務部	0493-53-4211	
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

別紙Aを参照下さい。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙B、別紙Cを参照下さい。

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	13,700				
その他ガス					
温室効果ガスの計	13,700				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0611	事業所番号	061101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場		
事業所所在地	市区町村	比企郡滑川町	
	字・地番	都25-10	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	クノールプレムゼステアリングシステムジャパン株式会社		
産業分類名（中分類）	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号（中分類）	31		
事業活動の概要	埼玉第二工場は乗用車用パワーステアリング、及びマニュアルステアリングの開発・設計・製造を行っている。 令和3年6月時点の従業員数：179名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	3,740	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	1.3760 t-CO <sub>2</sub> /MWh/年
	令和元年度(2019年度)実績(エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量3740t-CO <sub>2</sub> )に対し年平均6.0%削減					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,666				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,740	3,277				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)		12.4				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		3,277				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.3760	1.4840				
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)		-7.9				
活動規模の指標単 位						
内製付加価値額	M¥/年	2,208.15				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	上期新型コロナウイルスの感染拡大により受注減のため、工場は操業するがライン稼働の低下による非効率発生
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

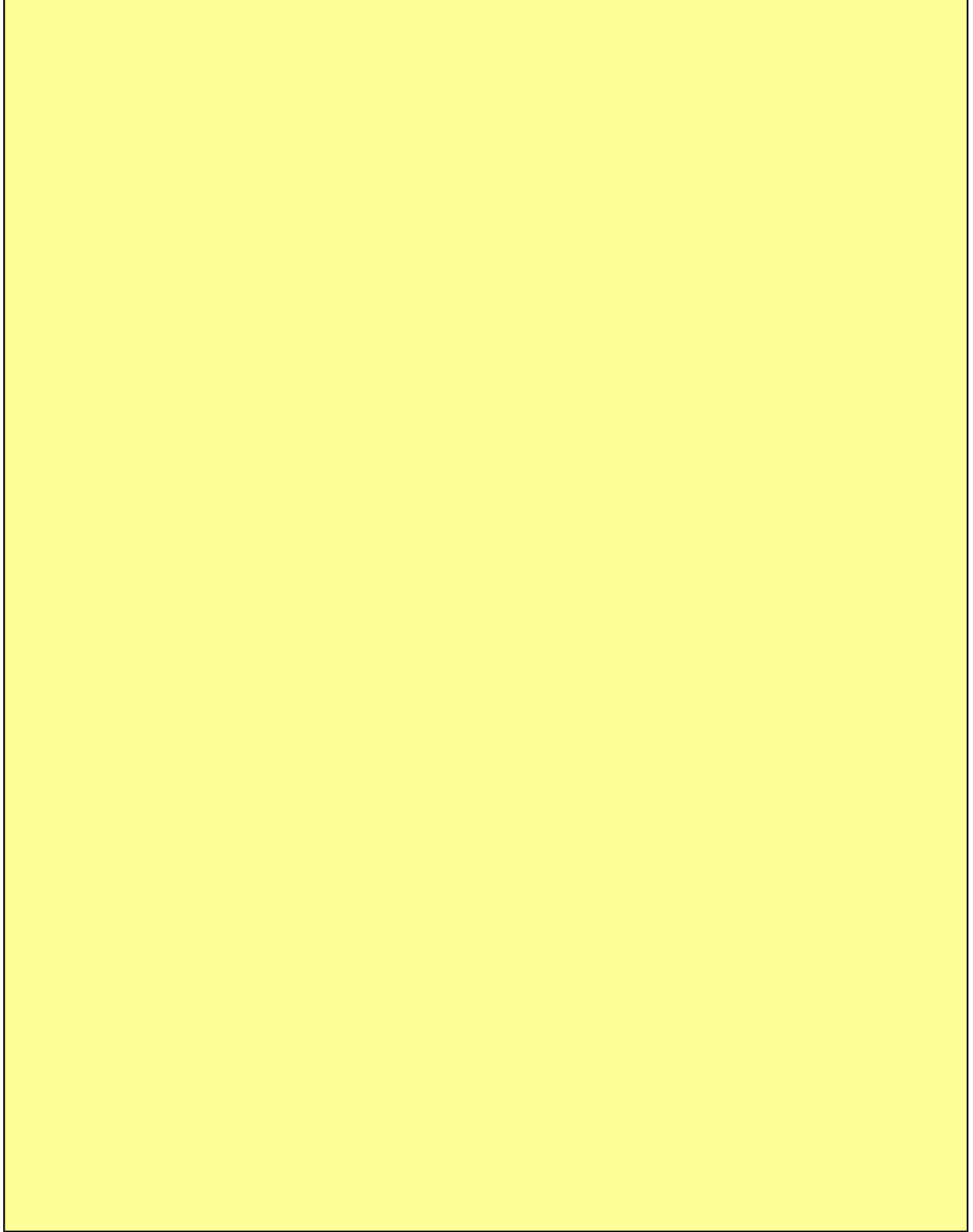
## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアリー漏れ対策の実施	R2	R2	1.0
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機の稼働時間管理	R2	R2	1.0
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	大家(KBSJ)と電気系統別の按分量の見直しを実施	R3		80.0
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 3 年度

事業者番号	0611	事業所番号	023301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立Astemo株式会社 埼玉第一工場		
事業所所在地	市区町村	行田市	
	字・地番	藤原町一丁目14番地1	
産業分類名(中分類)	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	31		
事業活動の概要	事業内容	4輪車用ショックアブソーバー 従業員数: 991名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	【第3計画期間】基準排出量 13,885t-CO <sub>2</sub> に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	55,540	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	13,885	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,249				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	10,423				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	10,423				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位					
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標 単 位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
設備の増減は無いが、令和元年度に比べ令和2年度は、コロナ影響により生産数が減産(▲12.4%)した事により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少(▲9.7%)した。						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	13,885	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	13,885	13,885	13,885	13,885	13,885	69,425	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							55,540
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							13,885
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,423					10,423	
	削減率 (F = (A - E) / A)	24.93%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	3,462					3,462	
各年度の排出量の検証		未実施						

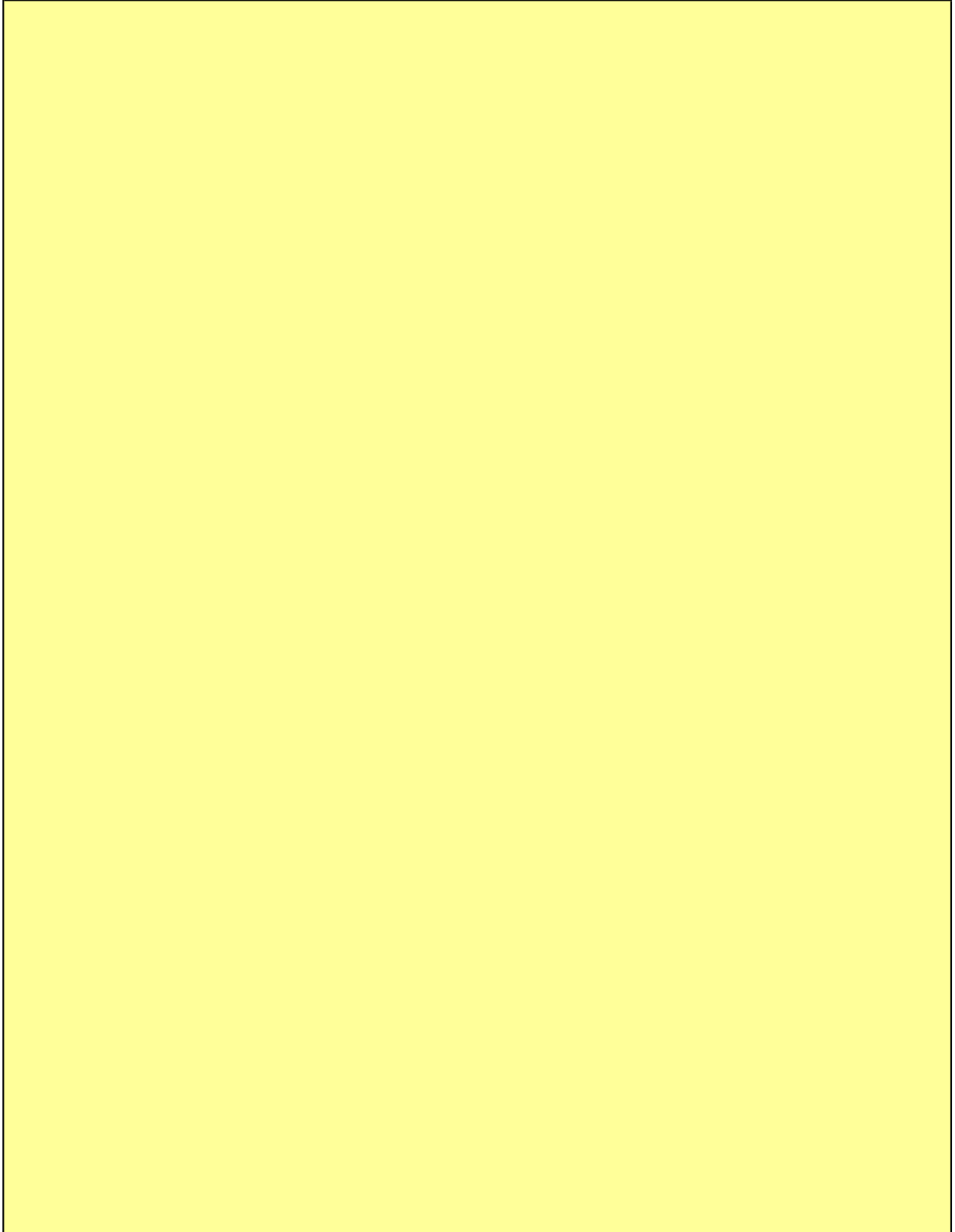
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	省エネ分科会開催 6回/年	R1以前	R1以前	
2	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	塗装用蒸気ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	177
3	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	A重油焚き吸収式冷温水発生器の熱源変更と全体冷房改修	R1以前	R1以前	93
4	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	動力トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	33
5	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	400V動力トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	5
6	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯照明のLED化	R1以前	R1以前	8
7	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	メッキ用蒸気ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	22
8	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	温水ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	75
9	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量を把握し月報を作成	R1以前	R1以前	
10	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	建屋別エア供給と生産工程別エア集中配管化による供給ロス削減	R1以前	R1以前	36
11	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	空調トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	10
12	320300		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	塗装設備の更新による燃料(都市ガス)の削減	R1以前	R1以前	3
13	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	開発棟トランストップランナータイプへの変更	R1以前	R1以前	5
14	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場照明のLED化	R3		39
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



## 日立Astemoグループ 環境方針

## 環境理念

「私たちは、世界をリードする先進的なモビリティソリューションの提供を通じて、持続可能な社会人々の豊かな生活の実現に貢献します」というambitionのもと、私たちの事業、活動を始め、生み出す製品及びサービスが、地球環境に深く係ることを認識し、その保護を積極的に推進します。

## スローガン

私たちの地球環境保護への行動で、環境と調和した持続可能な社会の実現に貢献します。

## 環境行動指針

## 1. 環境関連法令の順守と汚染の予防

- 1) 環境側面に対する該当法令を順守する。  
このため、必要に応じて自主基準を設定する。
- 2) グローバルなモノづくりに際しては、当該地域の環境に与える影響に配慮し、地域社会の要請に応えられる対策を実施するよう努める。
- 3) 受け入れを決めた環境に関する顧客などからの要求事項を順守する。
- 4) 環境問題の可能性を評価し、汚染予防に努める。万一、環境問題が生じた場合には、環境負荷を最小化するよう適切な措置を講ずる。

## 2. 環境管理機能の整備と継続的改善

- 1) ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを用い、環境関連規定、並びに推進体制を整備し、環境負荷削減目標を定め活動する。
- 2) 継続的改善による環境パフォーマンスの向上を図る。
- 3) これらの取組みにより経営のマネジメントシステム発展に寄与する。

## 3. 製品のライフサイクルにわたるグローバルなモノづくり推進

製品の研究開発・設計、資材調達、生産、流通・販売、使用、廃棄などの各段階における環境負荷の低減をめざしたグローバルなモノづくりを推進する。

- 1) 環境配慮型製品の開発・設計
- 2) 地球温暖化防止のための省エネルギー推進
- 3) 化学物質管理の徹底と排出量削減
- 4) 循環型社会に対応した省資源、資源循環推進

## 4. 生態系の保全

自然と共生する社会を実現するため、事業活動と地域に根ざした自然保護に関する社会貢献活動の両面から、生態系保全の取り組みを推進する。

## 5. 教育訓練、意識の向上

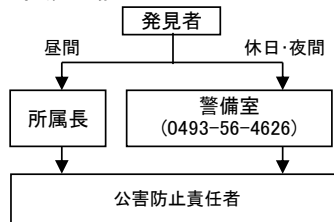
この方針を日立Astemoグループで働く人及び日立Astemoグループのために働く人に周知し、環境に関する法令順守、環境への意識向上、広く社会に目を向け、幅広い観点からの地球環境保護について教育する。

## 6. 情報の開示

環境保護活動についてステークホルダーへの情報開示と積極的なコミュニケーションに努め、相互理解と協力関係の強化に努める。

## 《緊急時の連絡ルート》

<埼玉第二工場>



\* 緊急時とは、油、薬品、汚水等が雨水側溝に流入した時、及び通常と違う騒音、振動、臭い、煙が発生した時をいう。

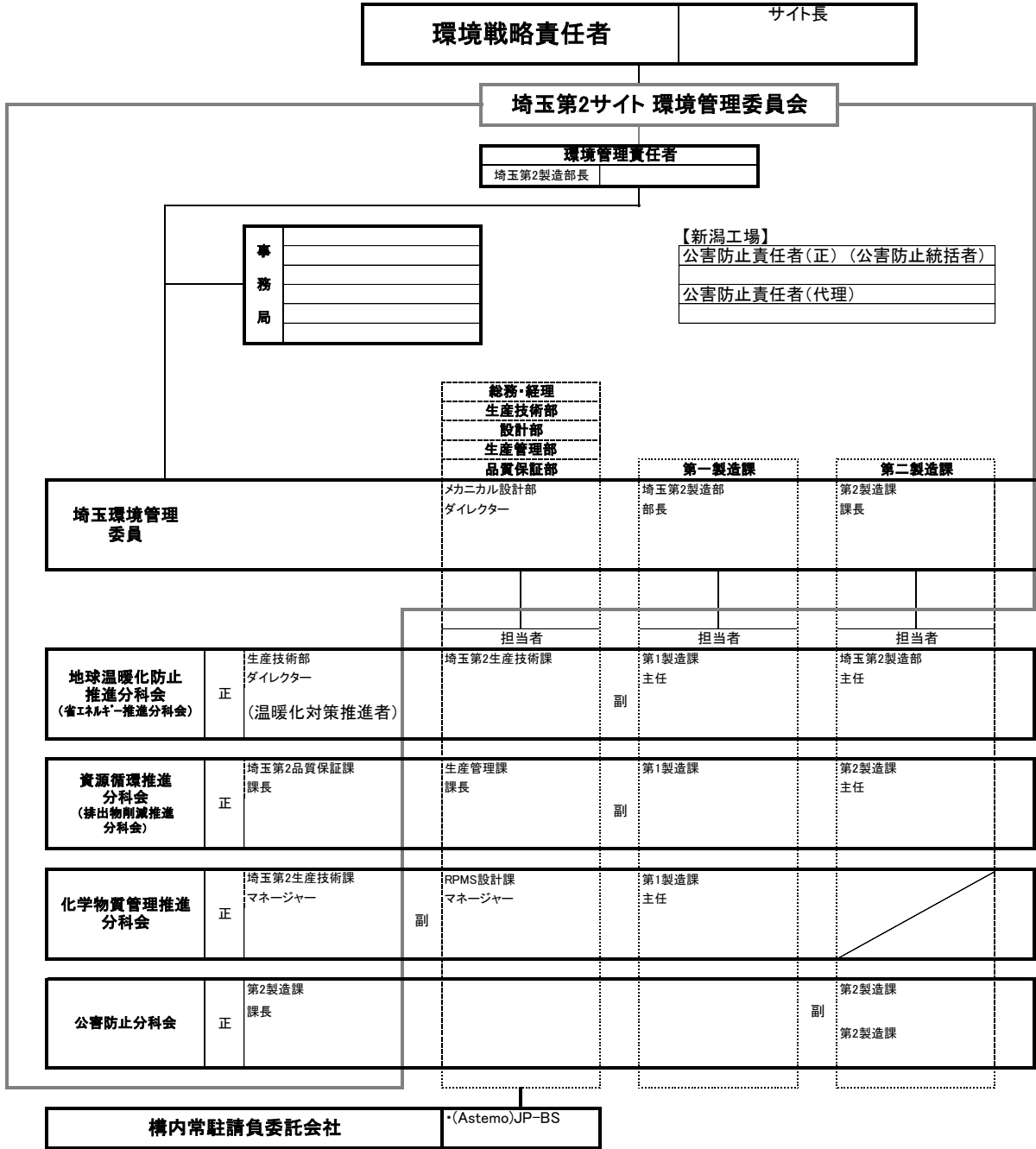
\* 報告内容…いつ、どこで、何がどうして、どうなったかを報告する。

\* 処置…被害が拡大しない様に応急処置をとること。(応急処置用器材の活用)

【自分の業務(仕事)と環境との関連】  
(認識を持とう！)

1. 自部門(自分)の本来業務は何ですか？
2. 自分の業務が環境に与える悪い影響は何ですか？
3. 環境を良くするために実行している業務や努力は何ですか？
4. 順守義務(法令や客先の要求)や社内ルールを守らないとどうなりますか？

2021年4月 埼玉第2サイト環境管理委員会





# 別紙C 全社環境マネジメント組織図



履歴No.	年月日	改訂内容	承認者	作成者
0				
△1				
△2				
△3				

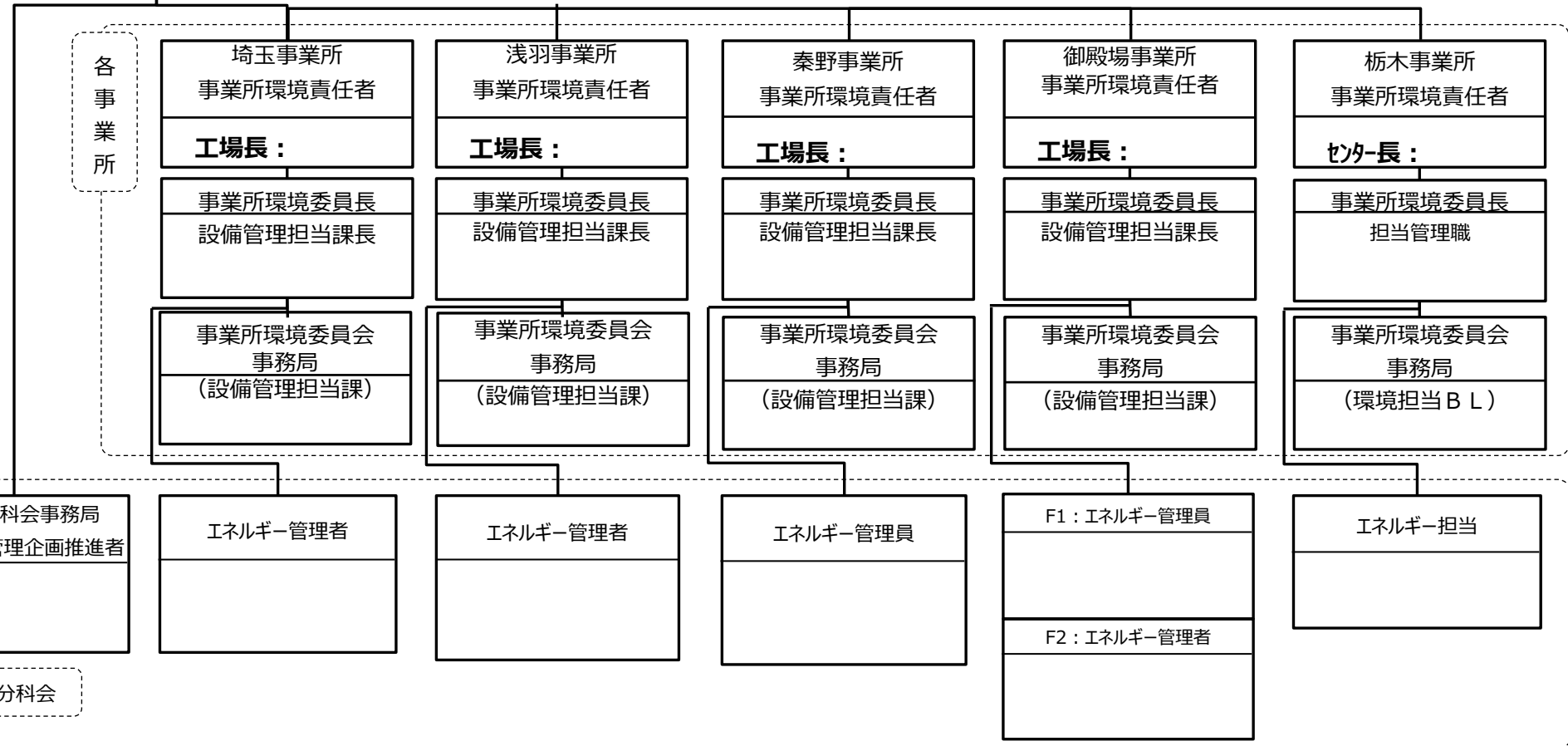
環境総合責任者 / エネルギー管理統括者 / 環境委員長  
**品質本部長**

環境管理責任者 / 環境副委員長  
**品質保証部長**

環境内部監査チーム

環境委員会事務局  
品質保証部  
事務局

国内関連会社(情報共有、SES適用除外)  
ショーワ精工、九州ショーワ



省エネ分科会

令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	地方独立行政法人埼玉県立病院機構		
所在地	さいたま市浦和区高砂三丁目13番3号		
事業者番号	0612		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	12,838	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	83 医療業		
分類番号 (中分類)	83		
事業活動の 概要	事業内容 埼玉県での医療対策として必要とされる高度専門医療等を提供するとともに、地域との連携により本件の医療水準の向上に貢献し、県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的としている。		
	区分 その他		
	前年度	資本金	百万円
	従業員数	人	
商標又は商号 (連鎖事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	035101	埼玉県立がんセンター・精神医療センター	5,588
C	035102	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	3,165
C	035104	埼玉県立小児医療センター	4,085
合 計			12,838

（4）公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/c1401/byouinkyoku-ondannkataisaku.html">http://www.pref.saitama.lg.jp/c1401/byouinkyoku-ondannkataisaku.html</a>
	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	
		所 在 地 1	
		閲 覧 可 能 時 間 1	
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
		閲 覧 可 能 時 間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

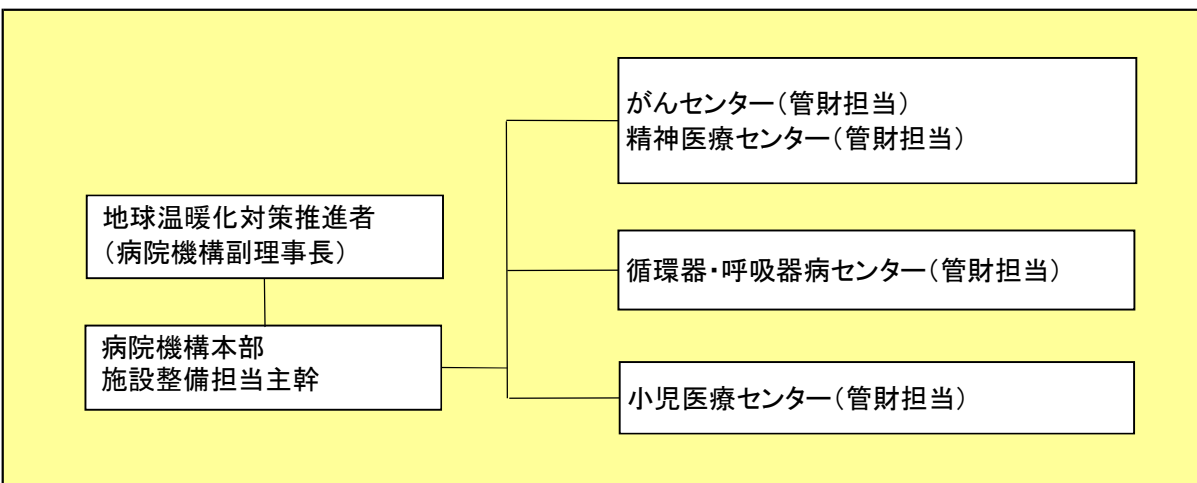
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本部 施設整備担当	048(830)5979	a5970-03@saitama-pho.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

- 環境の保全と創造のための目標を定めます。目標達成のための取組の後、それを点検・評価し、取組の継続的な改善を進めます。
- 事務・事業が環境に与える影響を認識し、自らの役割と責任を自覚して業務を遂行します。
- 県民・事業者と協働して省エネルギー・省資源活動を行い、循環型社会を築きます。
- 環境に関する法令等を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
- 環境の保全と創造のための取組を積極的に公表します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	25,294				
その他ガス					
温室効果ガスの計	25,294				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立がんセンター・精神医療センター		
事業所所在地	市区町村	北足立郡伊奈町	
	字・地番	大字小室780番地	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 がん治療専門医療機関 精神医療専門医療機関 病床数 がん(503床) 精神(183床)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間においては、基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を22%とし、省エネルギー活動を継続させていく。			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	69,182	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	19,513	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,588				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	10,996				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	10,996				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1238				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
延床面積	m <sup>2</sup>	88,832.69			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和2年度は前年度と比較すると年間のCO<sub>2</sub>排出量に大きな変化は無かった。            (前年度比: -117t-CO<sub>2</sub> -1.1%減少)            新型コロナウイルス感染予防のため、病院内の換気対策等の環境改善を実施したが、感染予防のための来院者(面会者等)に制限をかけたこと、外気環境変動の要因により大きな変化が無かったと考えられる。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	17,739	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	17,739	17,739	17,739	17,739	17,739	88,695
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						69,182
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						19,513
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,996					10,996
	削減率 (F = (A - E) / A)	38.01%					—
	排出削減量 (G = A - E)	6,743					6,743
各年度の排出量の検証		未実施					



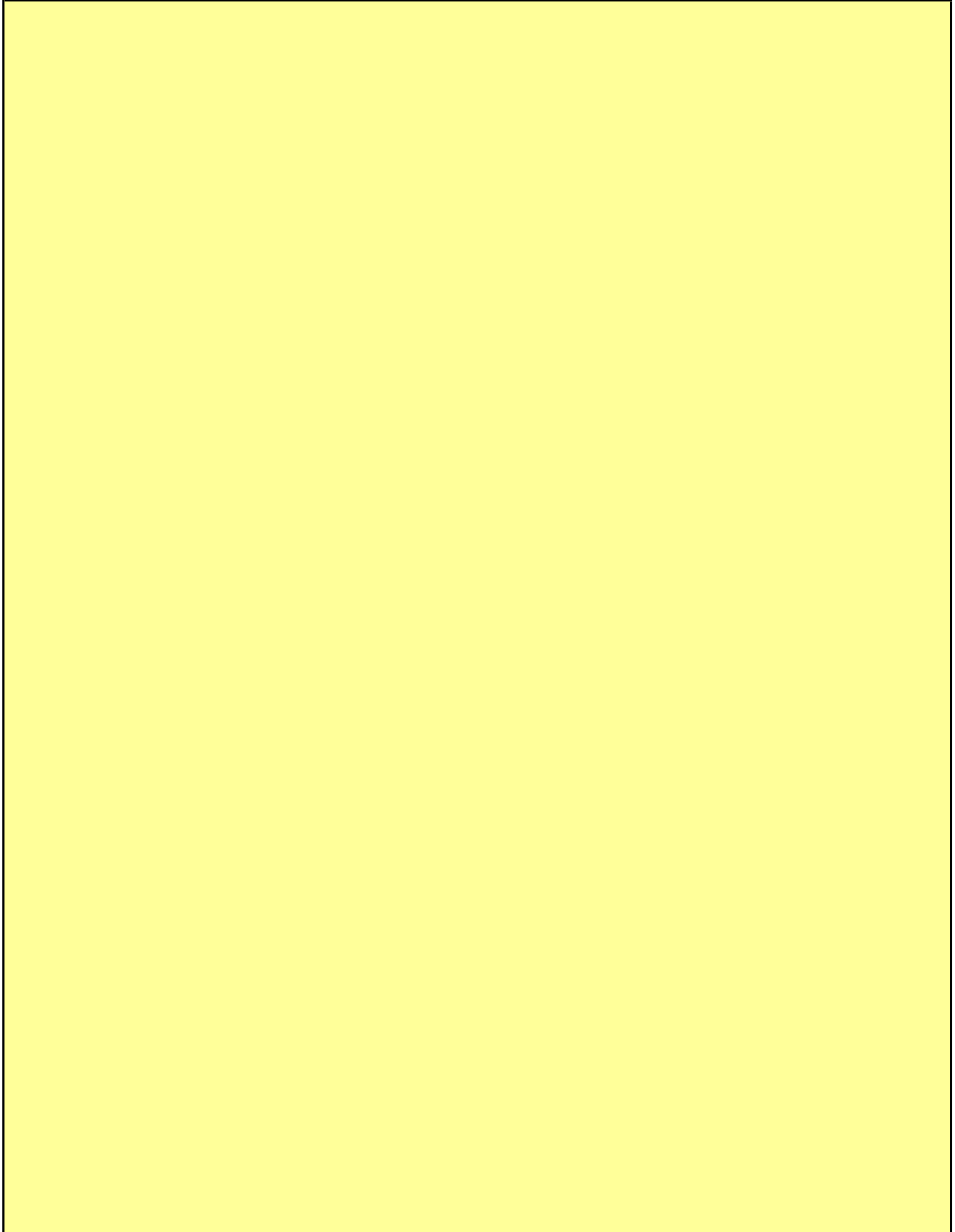
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	省エネルギー運営委員会の実施 <第3計画期間も継続>	R1以前	R2	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保 全管理	管理設備台帳の整備 <第3計画期間も継続>	R1以前	R2	
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用 量の管理	エネルギーフロー図の作成	R1以前	R1以前	
4	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	センター内の空調温度設定値を出来る だけ管理する<第3計画期間も継続>	R1以前	R2	
5	120700	熱源設備・熱 搬送設備	12_蒸気漏えい及び 保温の管理	蒸気配管断熱ジャケットの導入	R1以前	R1以前	9.0
6	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	電気室PAC/給排気ファン連携制御の導 入	R1以前	R1以前	8.0
7	120500	熱源設備・熱 搬送設備	12_熱搬送設備の運 転管理	冷水2次ポンプ熱搬送効率の向上対策	R1以前	R1以前	13.0
8	120500	熱源設備・熱 搬送設備	12_熱搬送設備の運 転管理	温水2次ポンプ熱搬送効率の向上対策	R1以前	R1以前	1.0
9	120500	熱源設備・熱 搬送設備	12_熱搬送設備の運 転管理	冷水2次ポンプ末端差圧制御の導入	R3		40.0
10	120500	熱源設備・熱 搬送設備	12_熱搬送設備の運 転管理	温水2次ポンプ末端差圧制御の導入	R3		22.0
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 3 年度

事業者番号 0612 事業所番号 035102

## 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 事業所の概要

## (1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

## (2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立循環器・呼吸器病センター		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	板井1696番地	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 循環器・呼吸器病治療専門医療機関 病床数 343床	

## 2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

## (1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を22%とする(必要に応じて排出量取引を活用する。)			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	33,391	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	9,419	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

## (2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,165				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	6,517				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
三フッ化窒素					
温室効果ガスの合計	6,517				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1533				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標	単位				
床面積	m <sup>2</sup>	42,523.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和2年度 (2020年度)	令和2年度は感染症の流行により来院者が減り、厨房などで使うプロパンガスの使用量は減少した。平成31年度が夏季の気温上昇が例年に比べ緩やかであったのに対し令和2年度は例年並であったため、都市ガスの空調使用量は前年より増加する結果となった。トータルでは排出量は増加した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	8,562	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,562	8,562	8,562	8,562	8,562	42,810	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							33,391
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							9,419
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	6,517					6,517	
	削減率 (F = (A - E) / A)	23.88%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,045					2,045	
各年度の排出量の検証		未実施						

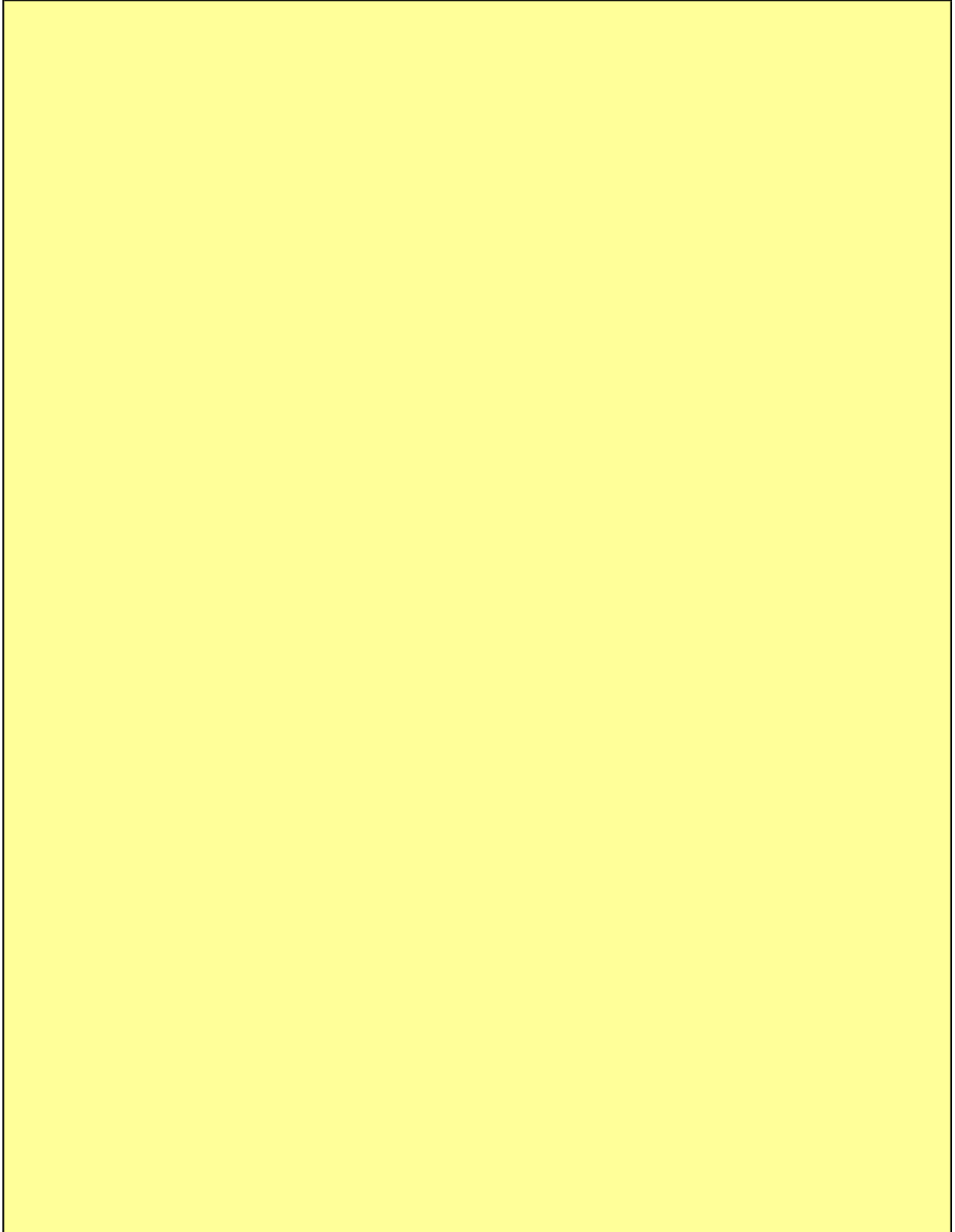
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	170200	負荷平準化	17_コージェネレーション	コージェネレーションシステム導入による発電機の高効率運転	R1以前	R1以前	
2	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	照明設備のLED化	R2	R2	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄





令和 3 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035104
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立小児医療センター		
事業所所在地	市区町村	さいたま市中央区	
	字・地番	新都心1番地2	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 小児治療専門医療機関 病床数 316床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、平均削減率を令和2~5年度は8%以上、令和6年度は15%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	47,347	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	4,913	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,085				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	7,781				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	7,781				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1190				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
床面積	m <sup>2</sup>	65,407.71			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	感染症対策のため、外気の導入量を増加させています。そのため、冬期の暖房負荷と加湿負荷が増加し、CO2排出量が前年度より増加しました。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	10,452	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	10,452	10,452	10,452	10,452	10,452	52,260	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	8.00%	8.00%	8.00%	8.00%	15.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							47,347
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							4,913
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	7,781					7,781	
	削減率 (F = (A - E) / A)	25.55%					-	
	排出削減量 (G = A - E)	2,671					2,671	
各年度の排出量の検証		未実施						

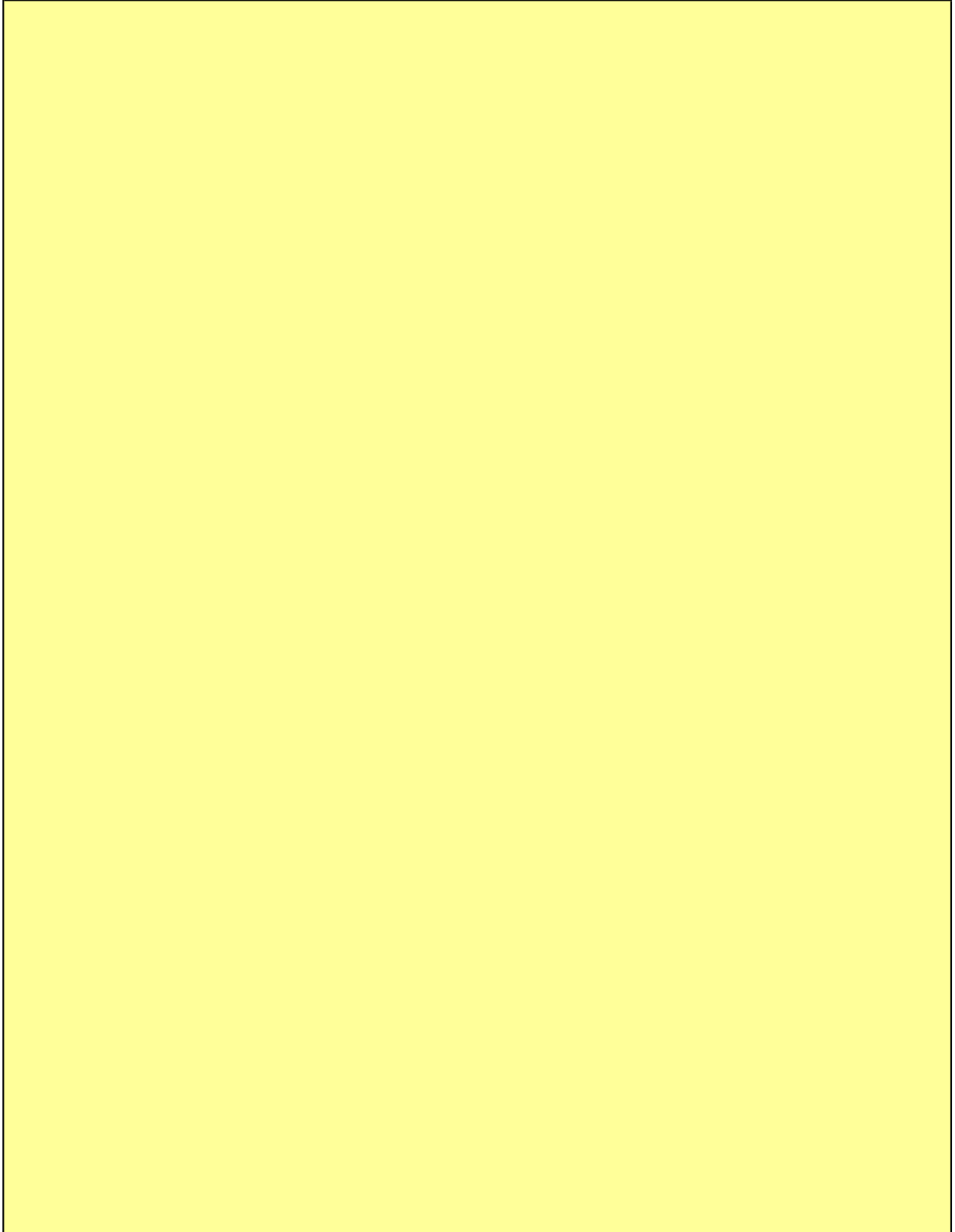
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	管理設備台帳の整備	R1以前	R1以前	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	エネルギーフロー図の作成	R1以前	R1以前	
3	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	センター内の空調温度及び湿度設定値の管理	R1以前	R1以前	
4	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水及び温水2次ポンプの末端差圧設定の適正化	R2	R2	20.0
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	電気室PAC/給排気ファン連携制御の導入	R1以前	R1以前	5.0
6	130300	空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	駐車場排気ファン夜間間欠運転の導入	R1以前	R1以前	2.0
7	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	蛍光灯の間引き	R3		2.0
8	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	空調機・送排風機へのエネベルトの採用	R3		20.0
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 神戸屋			
所在地	大阪府大阪市東淀川区豊新2-16-14			
事業者番号	0613			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,494	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	パン・洋菓子・冷凍生地・デリカ食品の製造販売、並びに ベーカリーレストランなど各種業態直営店舗の企画開発・運 営		
	区分	企業		
	前 年度	資本金	1,197	百万円
		従業員数	1,198	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	045701	株式会社 神戸屋 東京事業所	2,494
合 計			2,494

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	東京生産技術課	048-442-2971	tk-koumu@kobeya.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）



2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

「地域社会への貢献」を企業の使命と考え、環境への負荷の少ない企業活動を推進し、環境保全に努めます。①企業活動による環境への影響を考慮し、廃棄物等の極少化、資源・エネルギーの有効活用およびリサイクル活動に積極的に努めます。②関連する環境法規制を遵守すると共に、独自に目標を定め自主的な活動に取り組みます。  
 ③従業員へ環境に対する教育を実施し、ひとりひとりの理解を深め環境保全活動を励行します。  
 ④地域社会へ貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙参照

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,908				
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,908				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0613	事業所番号	045701
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 神戸屋 東京事業所		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	川岸1-2-36	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	パン製造 営業拠点 製品仕分け・配送拠点 従業員数：約300人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	・基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,316	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	7,329	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
2,494					

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,908				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,908				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.8474				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産高	百万円/年	5,792.08			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比104.4%  活動規模の指標（生産高）は前年度比104.8%  エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増加比率と生産高の増加比率では若干ではありますが生産高の方が上昇していることからエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量原単位は0.4%の改善となっています。要因としては生産効率の向上や省エネ活動によるエネルギー使用の改善が考えられます。</p>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,329	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,329	7,329	7,329	7,329	7,329	36,645	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							29,316
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,329
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,908					4,908	
	削減率 (F = (A - E) / A)	33.03%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,421					2,421	
各年度の排出量の検証		未実施						

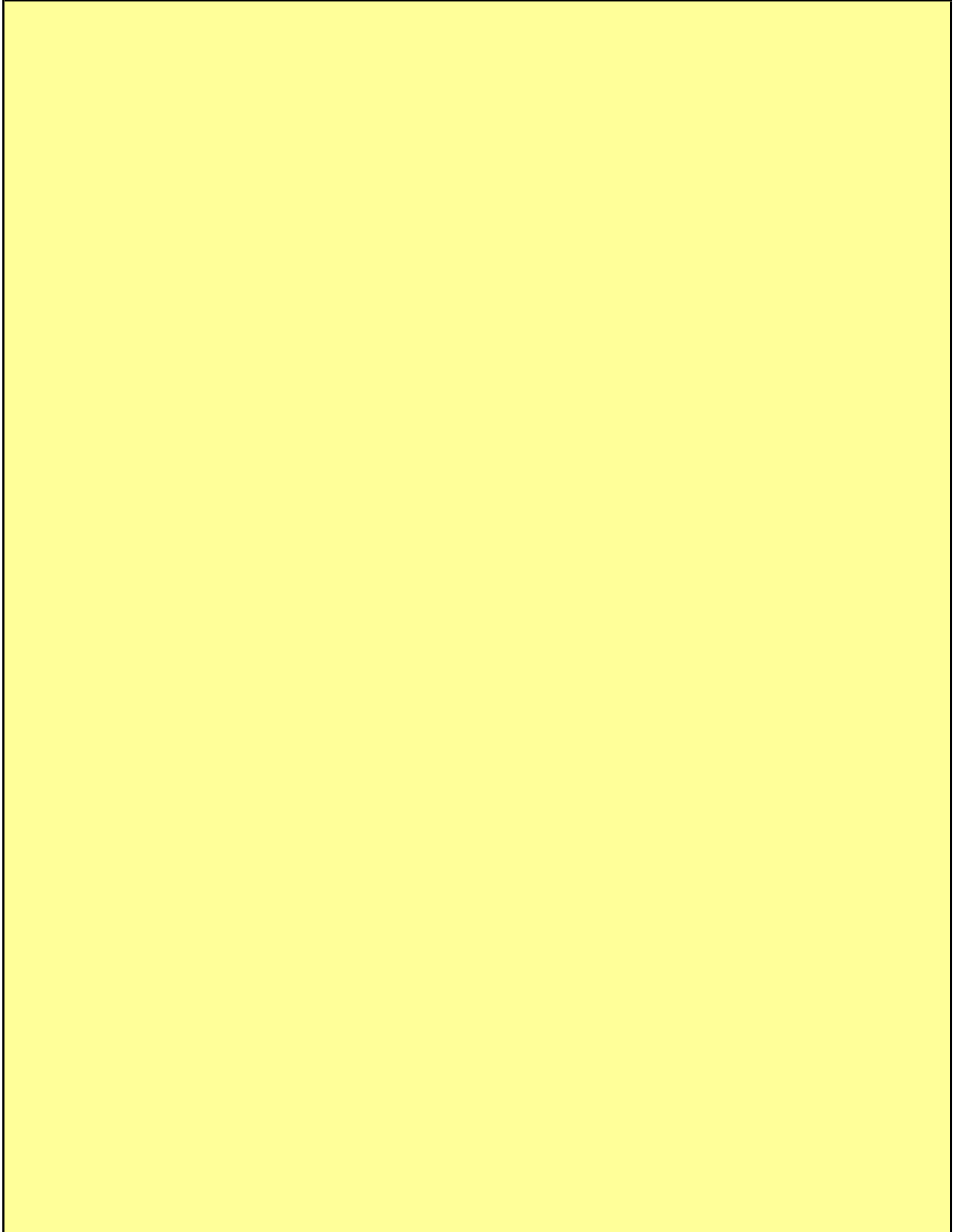
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	エアコンプレッサー更新 (22kWから15kWインバーター付に更新)	R3		30.0
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

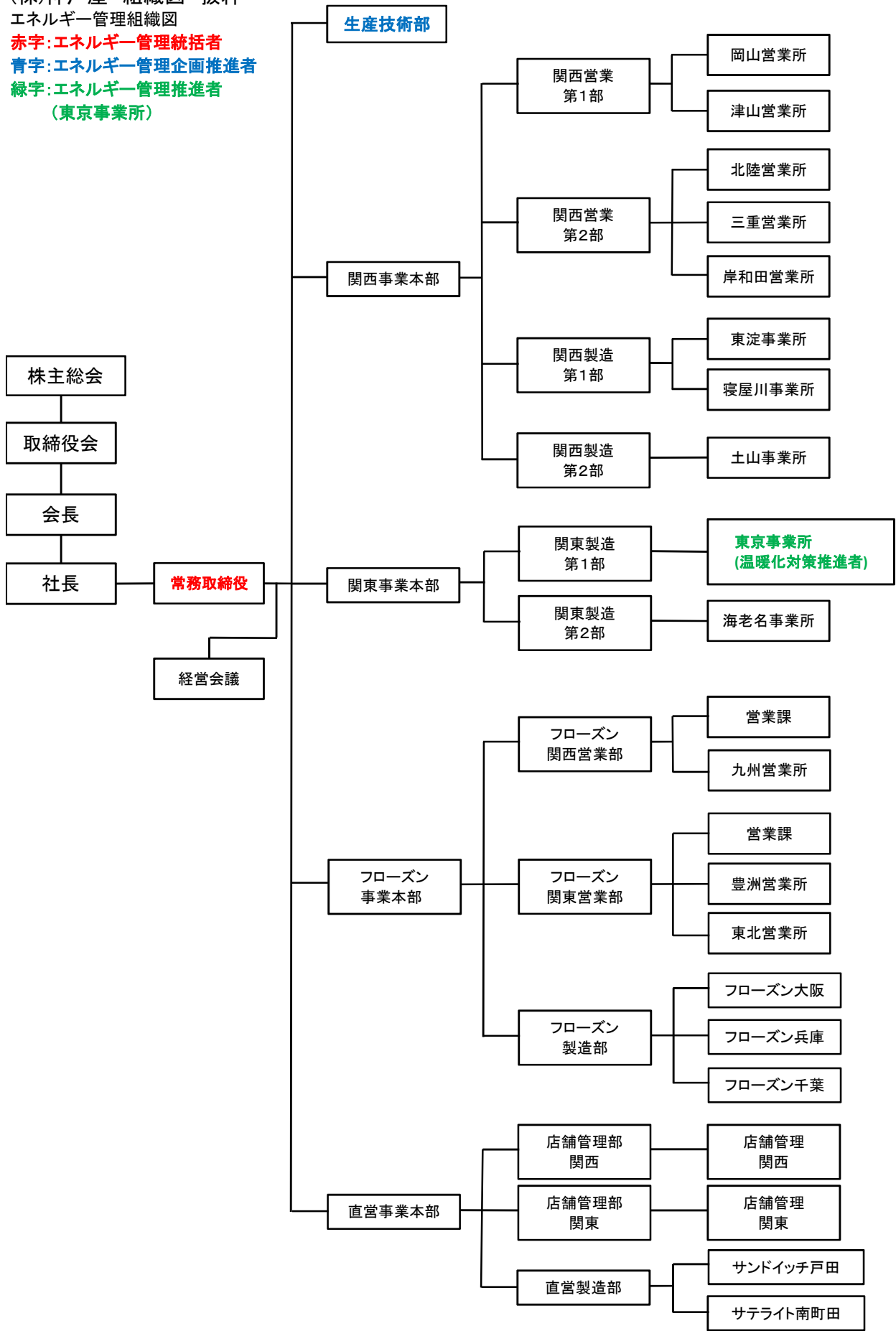
5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



(株)神戸屋 組織図 抜粋  
 エネルギー管理組織図  
 赤字:エネルギー管理統括者  
 青字:エネルギー管理企画推進者  
 緑字:エネルギー管理推進者  
 (東京事業所)





令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 J R 東日本クロスステーション			
所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目33-8			
事業者番号	0614			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,709	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	52 飲食料品卸売業			
分類番号 (中分類)	52			
事業活動の概要	事業内容	・事業内容：小売業 卸売業 製造、加工業 輸出入業 広告事業、宣伝の請負および代理業 飲食店業 理容業 美容業 プレイガイドの運営 旅行業その他観光事業 出版業 駐車場業 貸ロッカー業 宅配クリーニング 写真等の取次業 不動産の売買、貸借、管理、仲介及び鑑定に関する事業 小売店、飲食店等の企画、開発、営業に関する経営コンサルティング業 情報処理および情報提供サービス業 自動販売機の運営管理業務 湧水の販売等活用事業 自動販売機による物品の販売 ホテル、宴会施設、文化施設およびスポーツ施設の経営 不動産賃貸業 ・資本金：41億1百万円 ・従業員数：2930名（2021年4月1日現在*契約社員等を除く）		
	区分	企業		
	前年度	資本金	4,101	百万円
		従業員数	2,930	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061400	いろり庵きらく川口店	2,077
B、C事業所			
C	035301	株式会社JR東日本クロスステーションフーズカンパニー食品製造事業部戸田工場	1,632
合 計			3,709

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

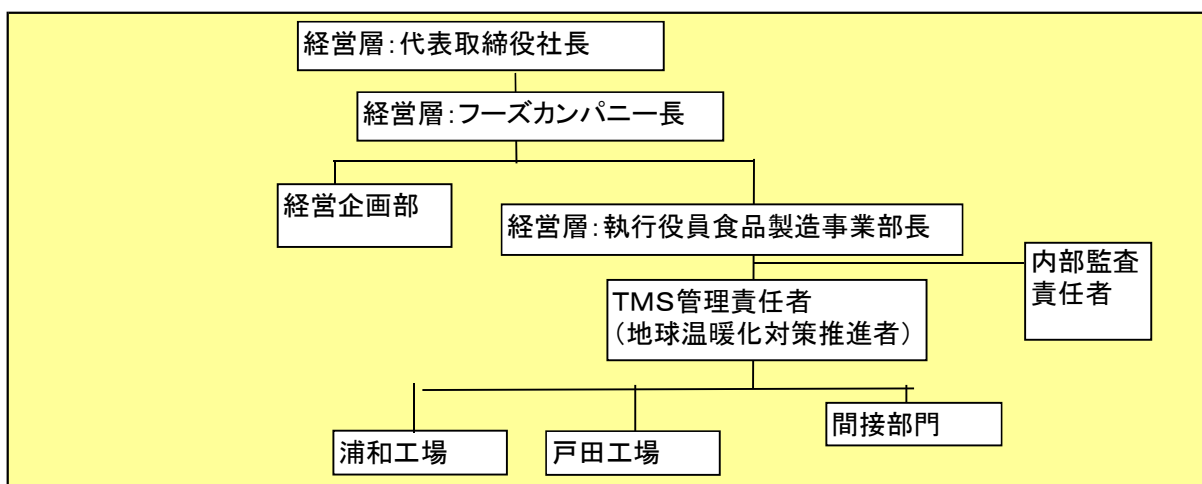
	名 称 （複数可）	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	フーズカンパニー食品製造事業部生産管理グループ	048-422-2881	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

＜ 食品製造事業部の経営方針 ＞  
 株式会社J R東日本クロスステーション食品製造事業部は、「お客さま第一主義」を掲げ、仕入・製造・仕分・配送を通じて安心・安全を提供し、未永くお客さまに喜ばれる商品創りに専念します。  
 この、経営方針を達成するため下記の活動に努めます。  
 1. お客さま第一主義に徹し、顧客の信頼と満足を得る製品、サービスを提供します。  
 2. 「食とサービス」の提供にかかわる関連法規、規制及びその他の合意事項を遵守します。  
 3. 働く従業員に対して職場環境の整備、向上に努めます。  
 4. 環境に配慮した企業活動を通じて、汚染の防止を推進します。  
 5. 環境と品質のマネジメントシステムを構築、実施、維持し、有効性の継続的改善に取り組みます。  
 その実現のため、以下を重点項目として推進します。  
 ①製品の信頼と安全の確保                      ③廃棄物の発生抑制と適正管理  
 ②省エネルギー化の推進                      ④環境に配慮した製品・サービスの提供

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	7,374				
その他ガス					
温室効果ガスの計	7,374				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0614	事業所番号	061400
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	いろいろ庵きらく川口店	前年度における事業所数	53
代表事業所所在地	市区町村	川口市	
	字・地番	栄町3-1-24	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	76 飲食店		
分類番号(中分類)	76		
事業活動の概要	・そば、カフェ、弁当、ベーカリー等の飲食店事業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	4,180	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	0.6658	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	令和2(2020)年度に合併した為、令和2年度の原単位を基準とし、今後プラス1%以内に抑えます。						
削減目標	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
削減目標	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	いろり庵きらく川口店	川口市栄町3-1-24
2	そば処中山道ecute大宮ノース店	さいたま市大宮区錦町630
3	おにぎり処えんむすびDila大宮店	さいたま市大宮区錦町630
4	そば処中山道大宮8・9番線店	さいたま市大宮区錦町630
5	鉄道博物館 トレインレストラン日本食堂	さいたま市大宮区大成3-47
6	いろり庵きらく浦和店	さいたま市浦和区高砂1
7	そば処中山道北浦和店	さいたま市浦和区北浦和3-3-5
8	いろり庵きらく蕨店	蕨市中央1-23
9	いろり庵きらく上尾店	上尾市柏座1-1-18
10	いろり庵きらく南浦和店	さいたま市南区南浦和2-37-3
11	いろり庵きらく南越谷店	越谷市南越谷1-21-1
12	いろり庵きらく川越店	川越市脇田本町39-19
13	いろり庵きらく熊谷改札内店	熊谷市筑波2-112
14	そば処中山道鴻巣店	鴻巣市本町1-1-1
15	そば処中山道西川口店	川口市並木2-20-1
16	いろり庵きらく西川口店	川口市並木2-20-1
17	TOKYO豚骨BASE北浦和店	さいたま市浦和区北浦和3-3-5
18	いろり庵きらく北浦和店	さいたま市浦和区北浦和3-5-5
19	TOKYO 豚骨BASE MADE by 博多一風堂 大宮店	さいたま市大宮区錦町630
20	いろり庵きらく大宮店	さいたま市大宮区錦町630
21	リトルマーメイドさいたま新都心店	さいたま市大宮区吉敷町4丁目261-1
22	ハニーズバー南越谷店	越谷市南越谷1-21-1
23	駅弁屋大宮新幹線ホーム南店	さいたま市大宮区錦町630
24	駅弁屋大宮新幹線ホーム北店	さいたま市大宮区錦町630
25	大宮4号売店	さいたま市大宮区錦町630

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
	2,077				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	基準	4,180				
	前 年 度 比 ( % )	—				
	基準となる排出量に対する 削 減 率 ( % )	0.0				
その他 ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温室効果ガスの合計		4,180				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	基準	0.6658				
	前 年 度 比 ( % )	—				
	基準となる原単位に対する削減率 ( % )	0.0				
活動規模の指標	単 位	6,278.26				
	売上高 百万円/年					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	(浦和工場以外の店舗) 令和2年度の㈱日本レストランエンタプライズとジェイアール東日本フードビジネス㈱との合併により対象店舗数が2倍以上となったが、エネルギー効率の高い店舗が加わったこともありCO2排出量は前年比144%に留まっている。売上高を指標とするCO2排出量原単位では、【0.873⇒0.711t-CO2】前年比81%となった。 (浦和工場) 受注数量が前年比4割減になり、生産量が減少し、設備稼働時間が短くなった。
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ディベロッパーとの連携によるエネルギー 使用量管理体制の推進	R1以前	R2	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

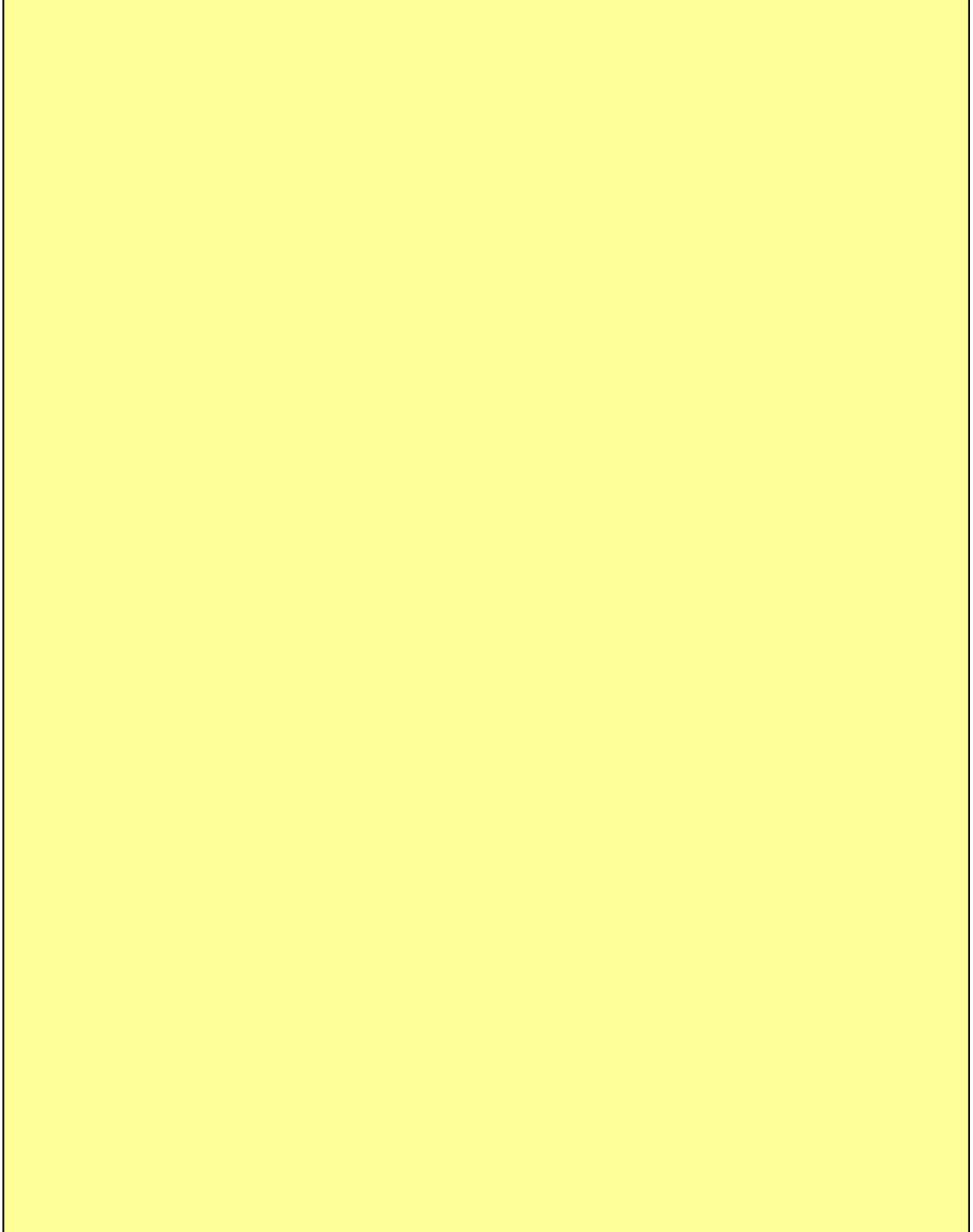


## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

事業者番号	0614	事業所番号	035301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 J R 東日本クロスステーションフーズカンパニー食品製造事業部戸田工場		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	大字美女木1269番地の17	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容：弁当、惣菜、パン、麺等の製造及び食材・資材の供給</li> <li>・従業員数：658名(2016年6月現在)</li> </ul>	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	28,504	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	7,126	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,632				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,194				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,194				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3126				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標	単位				
出荷額	百万円/年	1,381.13			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	出荷数量が前年比4割以上減。生産数量抑制に伴うエネルギー使用量減。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,126	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,126	7,126	7,126	7,126	7,126	35,630	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							28,504
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,126
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,194					3,194	
	削減率 (F = (A - E) / A)	55.18%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	3,932					3,932	
各年度の排出量の検証		未実施						

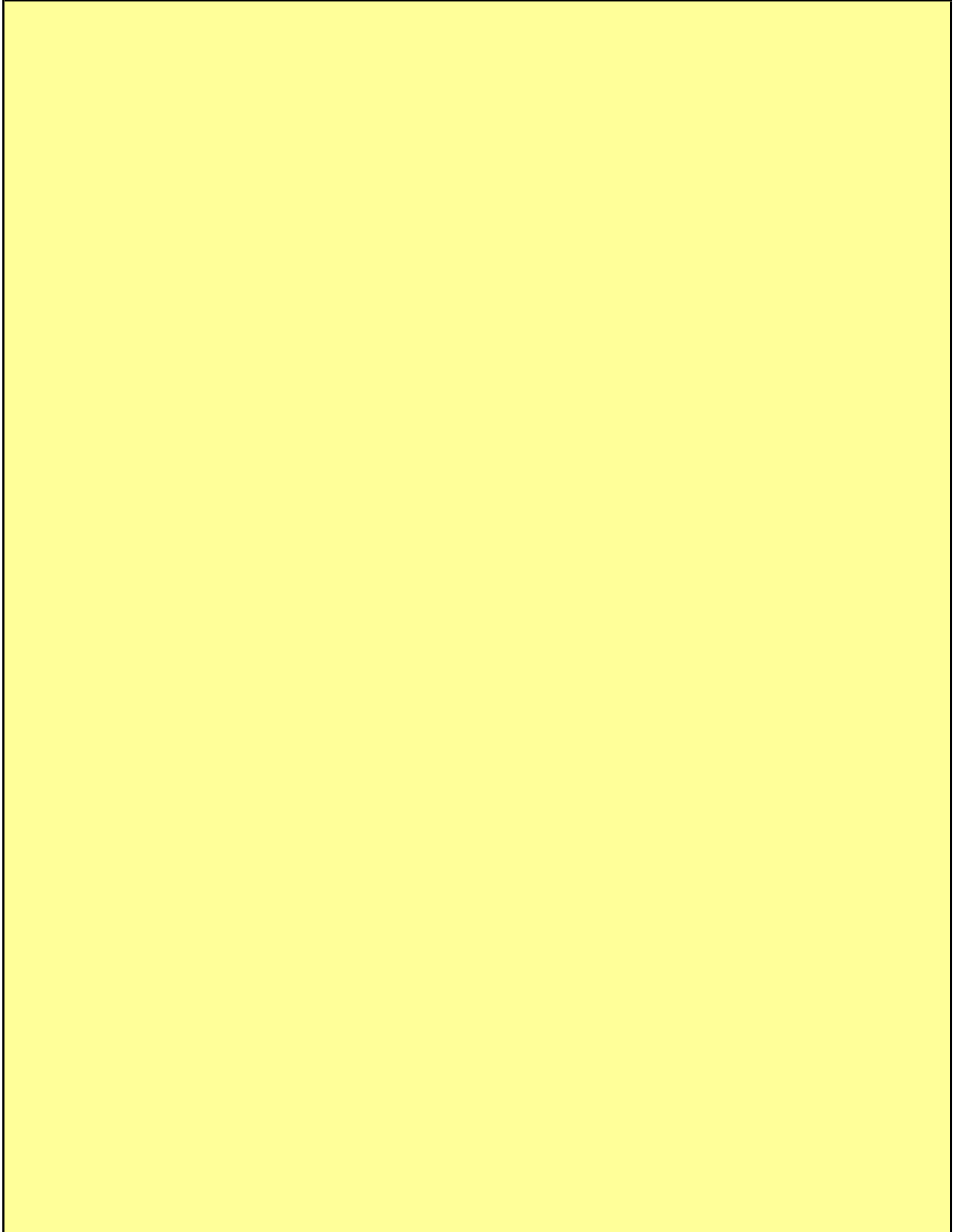
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分 中 区 分					
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明器具のLED化	R1以前	R1以前	
2	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	加熱連続フライヤーを最新タイプに更 新し、加熱時間短縮により、電力消費 抑制	R1以前	R1以前	
3	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	個別空調機の省エネタイプへの更新	R1以前	R1以前	
4	310100		一般管理事 項	31_推進体制の整備	停止した冷凍食品製造用冷凍機と蒸気 炊飯ラインを撤去	R1以前	R1以前	
5	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	更新期になった冷凍庫・冷蔵庫の冷凍 機をを最新タイプに更新し、電力消費 抑制	R1以前	R1以前	
6	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	仕分けエリアの冷蔵室を撤去してロッ カー室を設置	R2	R2	
7	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調室外機入替	R2	R2	
8	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調室外機入替	R3		
9	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	倉庫機能の外部委託	R3		
10	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	東京都にある工場から製造ライン移管 受入	R4		
11								
12								
13								
14								
15								

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ベックス与野店	さいたま市浦和区上木崎1-8-9
2	ベックス蕨店	埼玉県蕨市中央1-23-1
3	ベックス川口店	埼玉県川口市栄町3-1-24
4	ベックス北本店	埼玉県北本市北本1-12
5	ベックス大宮新幹線店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
6	ベックスさいたま新都心店	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4-57-3
7	ベックス川越店	埼玉県川越市脇田本町39-19
8	ベックス熊谷店	埼玉県熊谷市筑波2-112
9	ベックス久喜店	埼玉県久喜市久喜中央2-1-1
10	ベックス浦和店	埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12
11	ベックス北浦和店	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-3-5
12	ベックスステーションラウンジさいたま新都心店	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4-57-3
13	ベッカーズ大宮新幹線店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
14	鉄道博物館 キッズカフェ	埼玉県さいたま市大宮区大成町3-47 鉄道博物館
15	ほんのり屋ecute大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
16	ハニーズバー大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
17	ハニーズバー大宮駅第4ホーム店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
18	Railway Club 大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
19	リトルマーメイド蕨店	埼玉県蕨市中央1-23
20	リトルマーメイド川口店	埼玉県川口市栄町3-1-24
21	リトルマーメイド上尾店	埼玉県上尾市柏座1-1-18
22	デイズイecute大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
23	ほんのり屋川口店	川口市栄町3-1-24
24	ベックス大宮北口店	さいたま市大宮区錦町630
25	駅弁屋 旨囲門ecute大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町633JR大宮駅構内

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番



## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	大宮臨時売店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630JR大宮駅構内
2	鉄道博物館 ビューレストラン	さいたま市大宮区大成3-47
3	浦和工場	さいたま市桜区田島 9-20-3
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	朝日アグリア株式会社			
所在地	埼玉県児玉郡神川町渡瀬222			
事業者番号	0615			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	3,188	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の概要	事業内容	肥料事業、種苗事業、牧草事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	303	百万円
		従業員数	204	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061500	朝日アグリア株式会社 神川農場	67
Bテナント等	061501	朝日アグリア株式会社 関東工場	3,121
B、C事業所			
合 計			3,188

（4）公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="http://www.asahi-kg.co.jp/agria">http://www.asahi-kg.co.jp/agria</a>
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	朝日工業株式会社 関東工場
		所 在 地 1	埼玉県児玉郡神川町渡瀬2 2 2 番地
		閲 覧 可 能 時 間 1	AM10:00~11:30、PM1:00~4:00
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境安全管理課	0274-52-2715	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

〔経営理念〕

誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。  
 良い製品、良いサービスを提供し、地球環境に貢献し続けます。

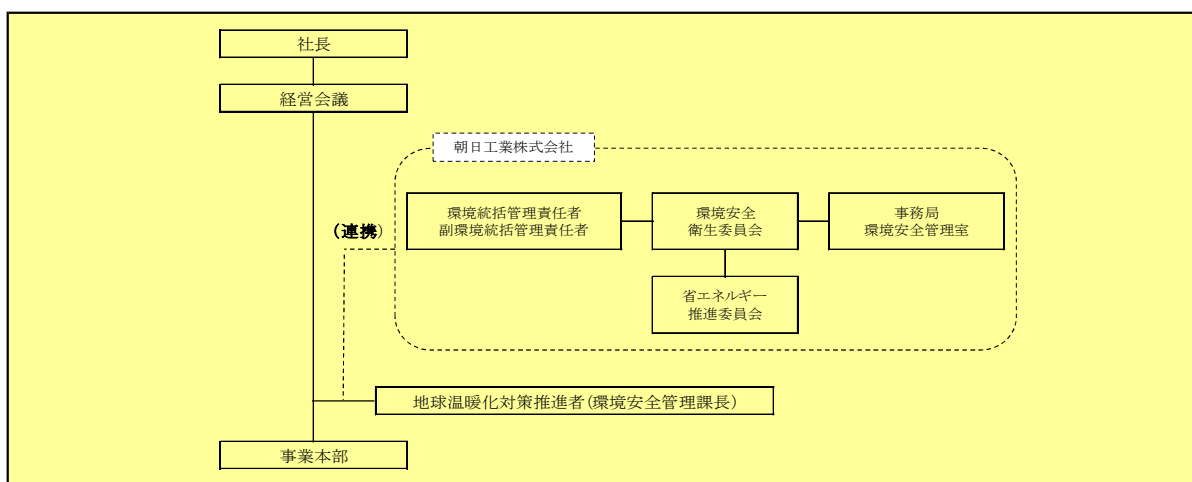
〔CSR指針〕

社会へ貢献、感謝、恩返しを大切にします。

〔環境指針〕

環境負荷低減、地球温暖化防止、ゼロエミッションを通して、環境へ貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,318				
その他ガス					
温室効果ガスの 合 計	6,318				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0615	事業所番号	061500
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	朝日アグリア株式会社 神川農場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町	
	字・地番	大字新里863-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	71 学術・開発研究機関		
分類番号(中分類)	71		
事業活動の概要	植物育種研究		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	163	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.0239	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	令和2年度の原単位を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	朝日アグリア株式会社 神川農場	児玉郡神川町大字新里863-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	67				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	163	163				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		163				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0239	0.0239				
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0				
活動規模の指標単位						
ハウス面積	m <sup>2</sup>	6,823.00				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	



## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

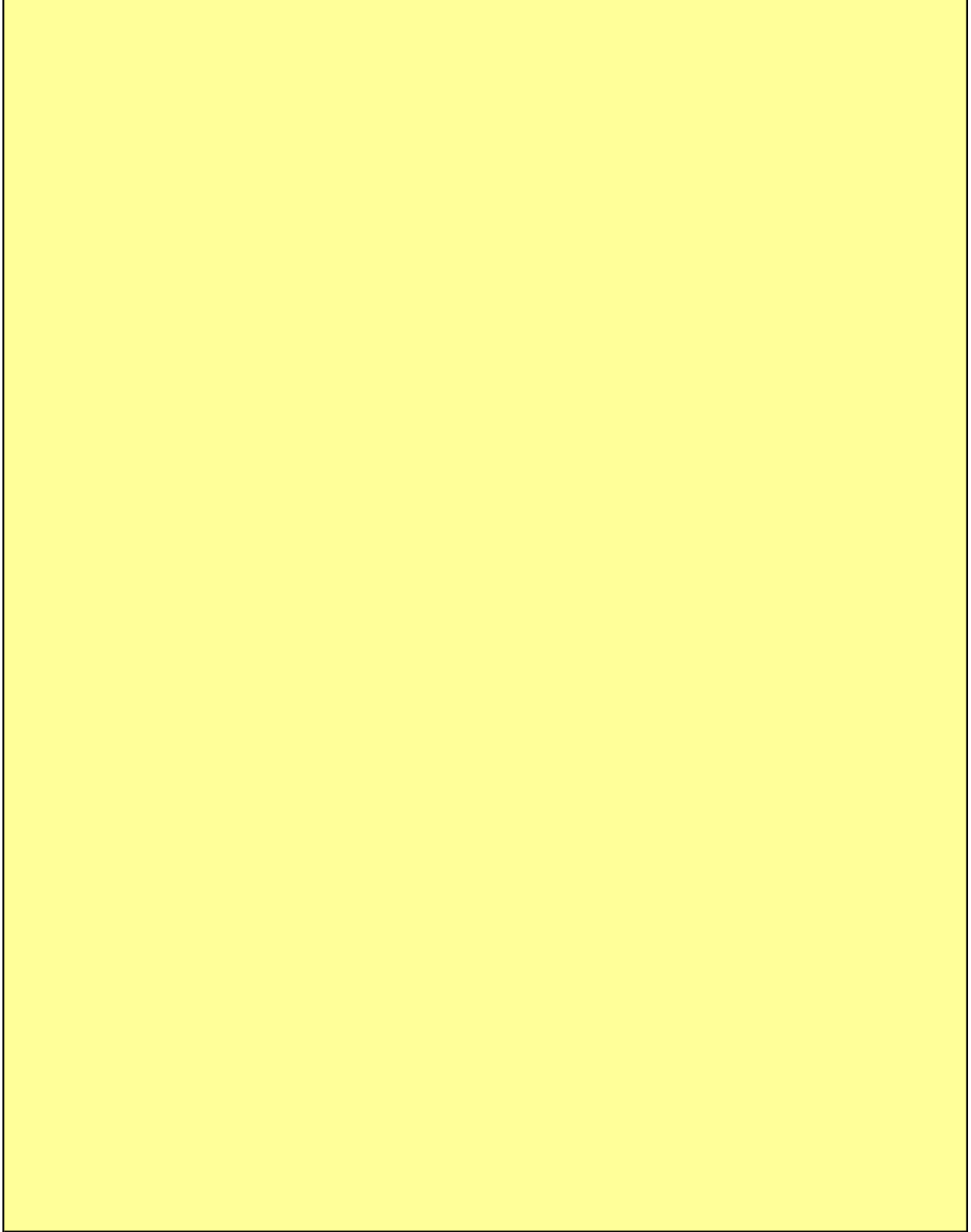
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施	R2	R2	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

事業者番号	0615	事業所番号	061501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	朝日アグリア株式会社 関東工場		
事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町	
	字・地番	渡瀬222番地	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	朝日工業株式会社 埼玉事業所		
産業分類名（中分類）	16 化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要	肥料事業、種苗事業、牧草事業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	6,155	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	0.1065	t-CO <sub>2</sub> /t/年
	令和2年度の排出量を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。 ※朝日アグリアは2020年度に朝日工業の会社分割により子会社となりました。両社にはエネルギー管理の連動性があることから、朝日アグリアはBテナント事業者として報告を行います。						
	その他ガス	基準となる排出量については、朝日アグリア単体での過去の排出量(2002~2007)の特定が難しいため令和2年度の排出量を基準としました。引き続き、朝日工業（C事業所）の削減目標達成に努めます。					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,121				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,155	6,155				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		6,155				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1065	0.1065				
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0				
活動規模の指標単位						
生産量	t/年	57,803.00				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

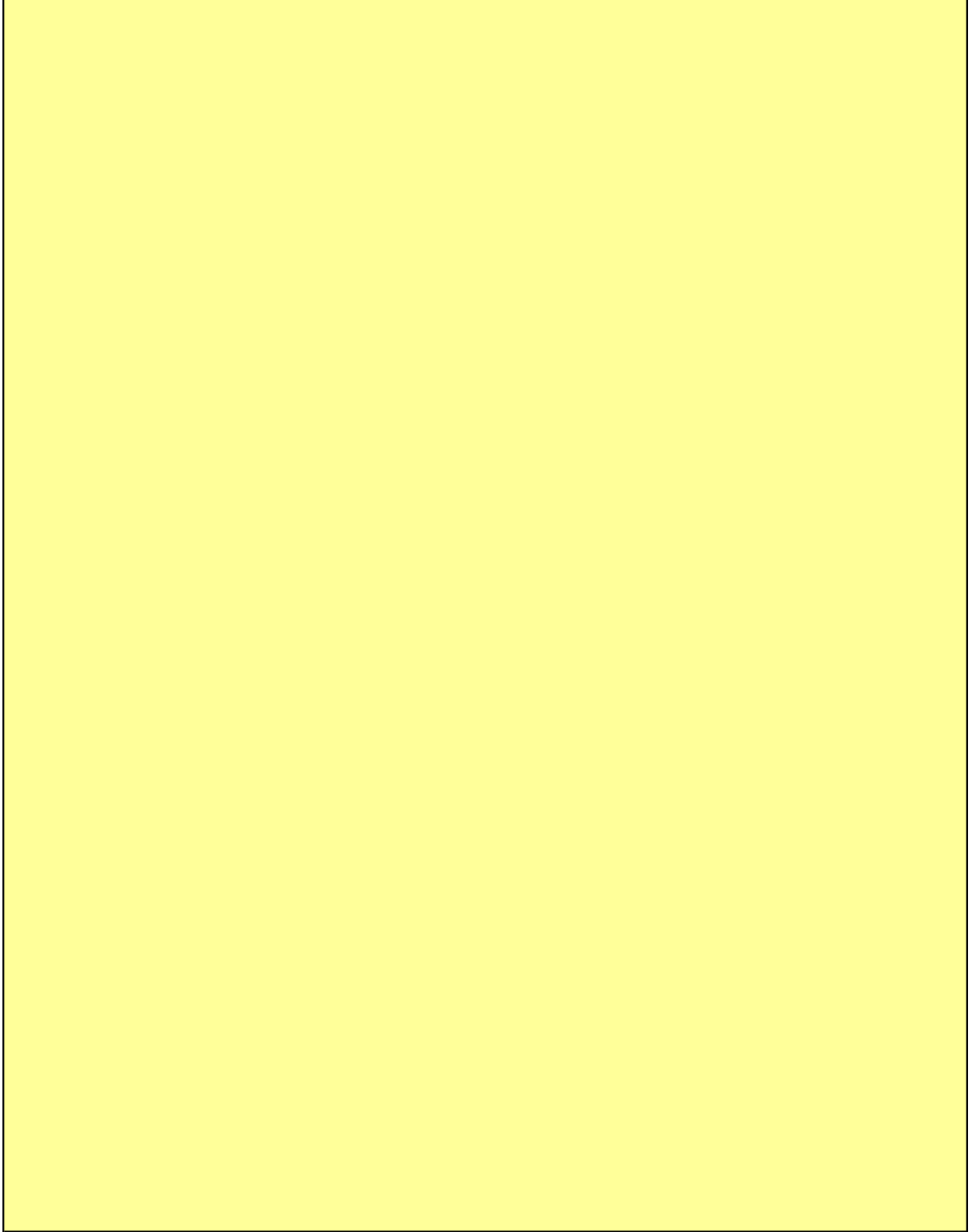
## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施。	R2	R2	
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	わらべや日洋食品株式会社		
所在地	東京都新宿区富久町13-15		
事業者番号	0617		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	8,598	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の 概要	事業内容	調理済食品の製造 1日生産量(グループ全体)最大600万食以上 2,180名(2021年3月末日現在) 臨時従業員 9,075名(1日8時間労働換算)	
	区分	企業	
	前年度 資本金	8,228	百万円
	前年度 従業員数	6,894	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			



## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	042602	わらべや日洋食品株式 吉川工場	2,945
C	042604	わらべや日洋株式会社 浦和工場	3,331
C	042601	わらべや日洋株式会社 大宮工場	2,322
合 計			8,598

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	わらべや日洋食品株式会社 生産技術部
		所在地 1	東京都新宿区富久町13-19
		閲覧可能時間 1	9:00~18:00 (土日祝日、年末年始を除く)
		閲覧場所 2	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場
		所在地 2	埼玉県さいたま市北区吉野町2-10-1
		閲覧可能時間 2	9:00~18:00 (土日祝日、年末年始を除く)
	その他		

## (5) 公表の担当部署

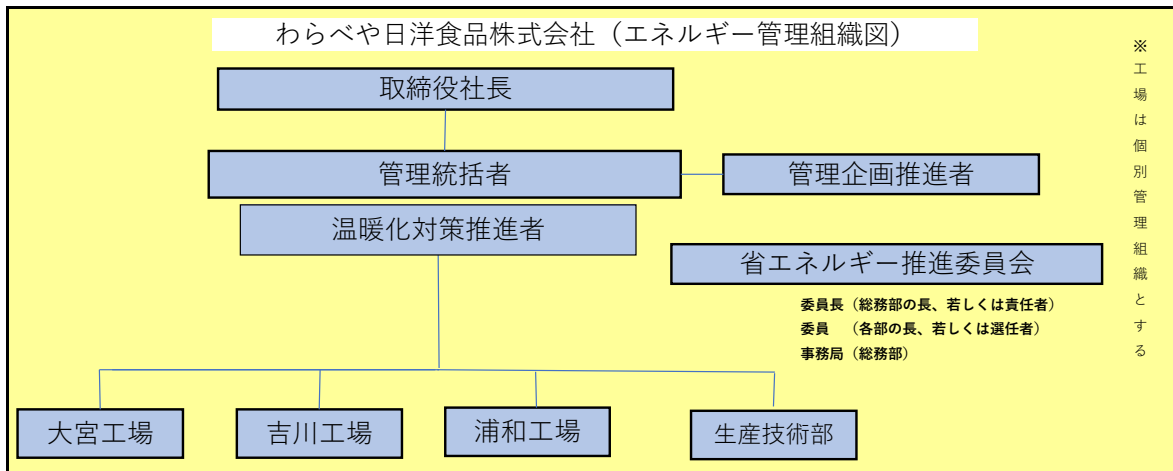
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	わらべや日洋食品株式会社 生産技術部	03-5363-7150	seisan.gijyutyu@warabeya.co.jp
2	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場管理課	048-668-0851	ohmiya-factory@warabeya.co.jp
3	わらべや日洋食品株式会社 吉川工場管理課	048-992-5001	yoshikawa-factory@warabeya.co.jp

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して地球の豊かな恵みの存続に貢献します。工場に合った削減設備及び対策内容を考慮し、適切な設備計画を実施し対策をおこなっていきます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	16,788				
その他ガス					
温室効果ガスの計	16,788				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号

0617

事業所番号

042602

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋食品株式 吉川工場		
事業所所在地	市区町村	吉川市	
	字・地番	大字南広島442番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理済食品の製造</li> <li>・従業員数 457名</li> <li>・敷地面積 11,875.76㎡</li> </ul>	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間の削減率20%を目標とする。また、必要に応じて排出量取引を行う。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	30,016	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	7,504	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,945				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	5,754				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	5,754				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.0175				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
生産量	万食	5,655.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産量は減少したが、生産内容に起因した排出量増加とみられる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,504	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,504	7,504	7,504	7,504	7,504	37,520	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							30,016
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,504
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,754					5,754	
	削減率 (F = (A - E) / A)	23.32%					—	
	排出削減量 (G = A - E)	1,750					1,750	
各年度の排出量の検証		未実施						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	エネルギー管理標準による管理実施		R2	
2	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	デマンド計を設置し、電力使用量の監視を行いコントロールを図る		R2	
3	330200		空調調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根及び空調外機に散水し夏場の電力消費量抑制を行う。		R2	
4	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	給排気設備の点検保守を行い、給排気バランスを整え空調機の電力負荷を軽減する。		R2	
5	330200		空調調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	給排気設備の点検保守を行い、給排気バランスを整え空調機の電力負荷を軽減する。		R2	
6	310400		一般管理事項 31_エネルギー使用量の管理	契約電力を前年対比で15%下げる事でエネルギー使用量の抑制を図る。		R2	
7				【上記対策を毎年度継続実施】			
8							
9	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気設備にスチームトラップ設置		R1以前	
10	330200		空調調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	給排気設備のインバーター制御の調整		R1以前	
11	150200		受変電設備、照明設備、電気設備 15_照明設備の運用管理	照明設備をすべてLEDに変更		R1以前	
12	330200		空調調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	省エネ型空調機に入れ替え		R3	
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

事業者番号	0617	事業所番号	042604
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋株式会社 浦和工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区桜田	
	字・地番	3-3-2	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 調理済食品の製造 従業員 380人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	削減計画期間の平均削減率を令和2年度~3年度は6%、令和4年度~6年度は13%とする。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	37,123	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	4,217	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,331				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	6,508				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	6,508				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3771				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
生産量	万食	2,737.80			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	排出量増加の要因として以下の事由が考えられる。 ・専用の加熱調理用皿を使う商品が増え、洗浄・消毒等の手間が増えた。 ・生産品目も増え、切替作業時間も増加してきた。 ・これまでどの商品もある程度のロットがあったものの、ラインにて30分にも満たない小ロット製品製造が目立った。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	8,268	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,268	8,268	8,268	8,268	8,268	41,340
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						37,123
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						4,217
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	6,508					6,508
	削減率 (F = (A - E) / A)	21.29%					—
	排出削減量 (G = A - E)	1,760					1,760
各年度の排出量の検証		未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	デマンド監視装置		R2	
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調室外機・屋上散水の実施		R2	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明設備の順次LED化		R2	
4				【上記対策を継続実施】			
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 3 年度

事業者番号

0617

事業所番号

042601

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋株式会社 大宮工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市北区吉野町	
	字・地番	2丁目10番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容：調理済食品の製造 従業員数：526人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間の削減率20%を目標とする。必要に応じて排出量取引を行う。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,860	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	6,715	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,322				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,526				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,526				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.7450				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	万食	6,075.00			



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産量は増加しているが、コロナ禍での稼働時間減少等が排出量減少に寄与しているとみられる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,715	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,715	6,715	6,715	6,715	6,715	33,575	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							26,860
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							6,715
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,526					4,526	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	32.60%					—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,189					2,189	
各年度の排出量の検証		未実施						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	空調機の点検を行い、効率の低下した機器を優先に更新と修理を行い空調機の効率化を図る。		R2	
2	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	デマンド計を設置し、電力使用量の監視を行う。		R2	
3	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根及び空調外機に散水し夏季の電力消費量抑制を行なう。		R2	
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	通路などを消灯し電力抑制を行なう。		R2	
5	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管の分岐部にエコジャケットを段階的に設置し、廃熱を抑制する。蒸気漏れがあった場合、すぐに対応し修理を行う。		R2	
6				【上記対策を継続的に実施する】			
7							
8							
9	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	一部の製造エリアを省エネタイプの蛍光灯に変更を行いたい。	R4		
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社KADOKAWA			
所在地	東京都千代田区富士見二丁目13番3号			
事業者番号	0618			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,064	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	41 映像・音声・文字情報制作業			
分類番号 (中分類)	41			
事業活動の概要	事業内容	総合エンターテインメント企業として、出版、映像、ゲーム、Webサービス、教育、MD、インバウンド関連などの幅広い事業を展開。ABW (Activity Based Working) を含めたデジタルトランスフォーメーションの推進により、IP (Intellectual Property) の安定的創出と世界への伸展を中核とした「グローバル・メディアミックス」戦略を実践。		
	区分	企業		
	前年度	資本金	25,600	百万円
		従業員数	1,710	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061800	ところざわサクラタウン 第2駐車場	3
B、C事業所			
B	061801	ところざわサクラタウン	2,061
合 計			2,064

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	グループ戦略総務局 総務部	050-1743-9614	
2			
3			

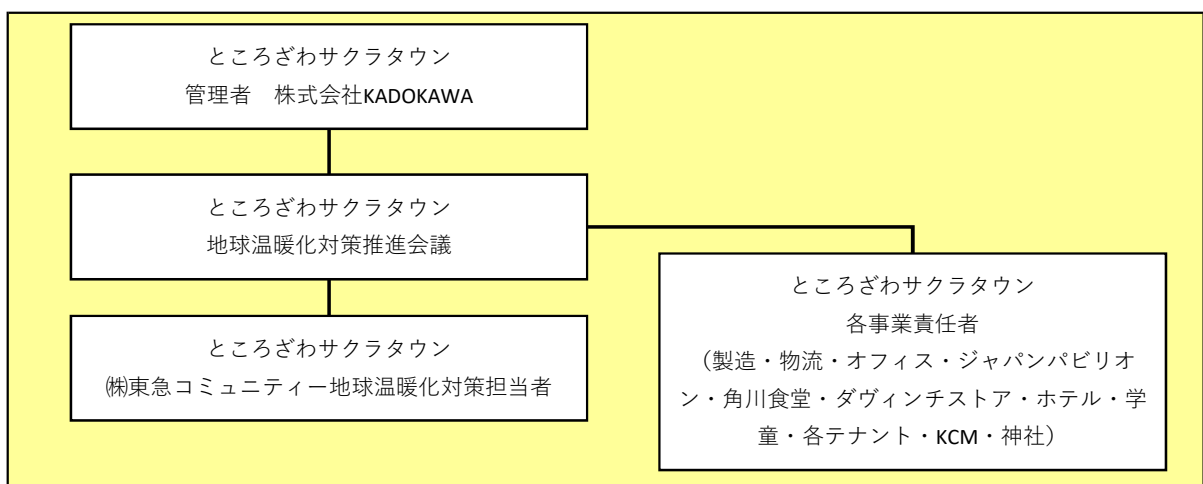
※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球温暖化対策として以下の項目を重視しながら取組み、目標を実現します。

1. 設備機器の更新時期での省エネルギー対応機器の導入
2. 照明・空調機器等の稼働時間の見直し
3. 入居テナントに対する省エネルギー推進への啓発活動

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,049				
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,049				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0618	事業所番号	061800
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	ところざわサクラタウン 第2駐車場	前年度における事業所数	2
代表事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	松郷138番地3	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	48 運輸に附随するサービス業		
分類番号(中分類)	48		
事業活動の概要	ところざわサクラタウンの来客用駐車場 第2駐車場が令和2年5月、第3駐車場が令和2年7月オープン		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	155	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /
	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、排出量の抑制は困難である。令和2年度は年度途中からの使用であったため、標準原単位による排出量を基準とし、計画期間内の排出量の維持を目標とする。					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					



事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ところざわサクラタウン 第2駐車場	所沢市松郷138番地3
2	ところざわサクラタウン 第3駐車場	所沢市松郷143番地1
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	155	6				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)		96.1				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		6				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標単位						

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、増減の要因としては来場者数の変動があげられる。 第2駐車場が令和2年5月、第3駐車場が令和2年7月のオープンのため、令和3年度のCO <sub>2</sub> 排出量は増加となる見込みである。
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

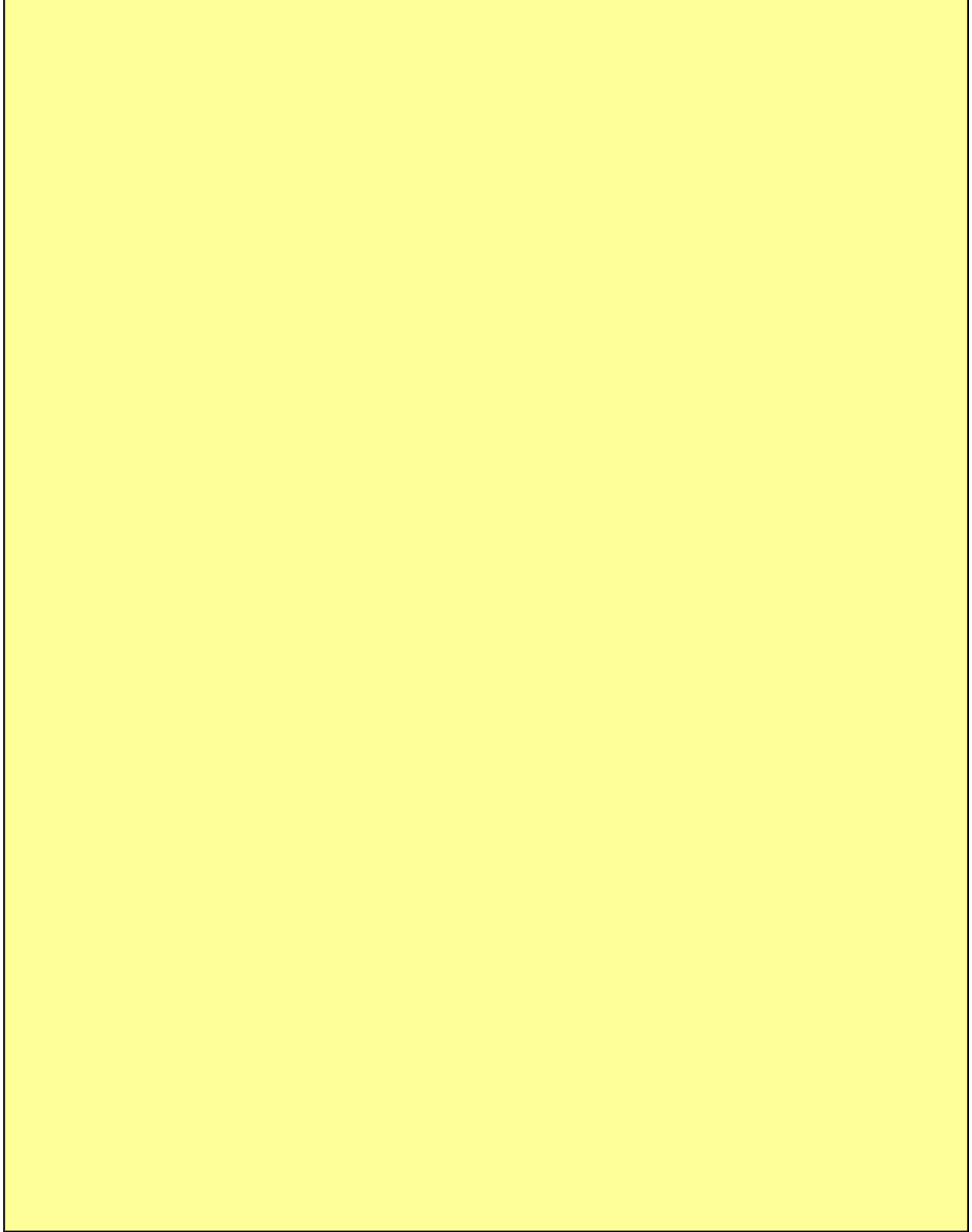
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を整備する。	R2	R2	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量を把握し、電子データとして保存する。	R2	R2	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	屋外照明のタイマー設定時間を見直し、季節にあった適正な点灯時間となるように管理する。	R2	R2	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 3 年度

事業者番号	0618	事業所番号	061801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ところざわサクラタウン		
事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	東所沢和田三丁目31番地3	
産業分類名 (中分類)	41 映像・音声・文字情報制作業		
分類番号 (中分類)	41		
事業活動の概要	事業内容	KADOKAWAが建設・運営する書籍製造・物流工場や所沢キャンパス (新オフィス)、イベントスペース、ホテル、ショップ & レストラン、ダ・ヴィンチストア、商業施設ほか、角川文化振興財団による文化複合施設も建設。	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	当施設は運用開始から間もなく、未だ施設の全エリアが本稼働に至っていないため排出量の増加は当面続く見込みとなっている。そのため、全エリアが本格稼働するまでの過渡期間においては、全エリア本稼働時に見込まれる予測排出量 (約8,000 t-CO <sub>2</sub> /年) を基準に、C事業所当初水準の8%を当面の削減目標と設定し、運用を進めてゆく。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
2,061					

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,043				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,043				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.9663				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
本棟熱量	GJ	1,363.00			

（4）エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>ところざわサクラタウンは令和2年4月30日に竣工、製造・物流エリアの試運転を令和2年7月から開始、令和2年11月よりグランドオープンとなった。 令和3年度は通年での営業となり稼働率も上がるため、CO2排出量は増加する見込みである。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	



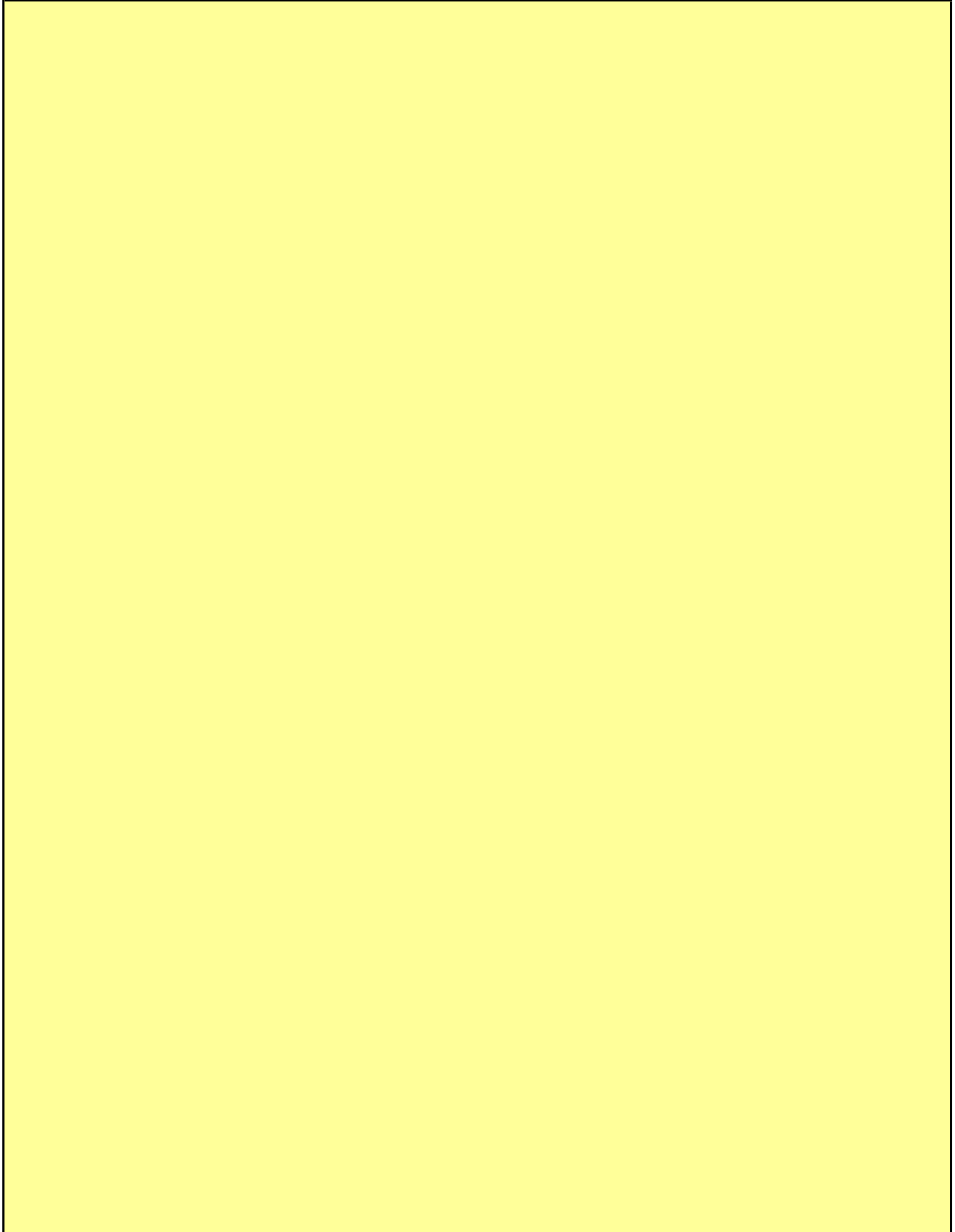
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を整備する。	R2	R2	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	BEMSにより使用エネルギーの計測及び記録の管理を行う。	R2	R2	
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量を把握し、電子データとして保存する。	R2	R2	
4	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	冷暖房の温度設定は政府等の推奨値を参考とし、適切な設定となるように管理する。	R2	R2	
5	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	不要時の消灯を実施する。	R2	R2	
6	150300	受変電設備、照明設備、電気設備	15_事務用機器等の管理	パソコン、複合機等の省エネモードの活用。	R2	R2	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社アルビオン			
所在地	東京都中央区銀座1-7-10			
事業者番号	0619			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,997	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の 概要	事業内容	高級化粧品の製造・販売 スキンケア・メイクアップ・フレグランス・ヘアケアなど化 粧品全般の開発、製造および全国の一流百貨店・有力化粧品 専門店を通じた販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	760	百万円
		従業員数	3,700	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061900	株式会社アルビオン 大宮支店	12
B、C事業所			
B	061901	株式会社アルビオン 熊谷工場	2,985
合 計			2,997

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	本社
		所在地 1	東京都中央区銀座1-7-10
		閲覧可能時間 1	9:00~17:30
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

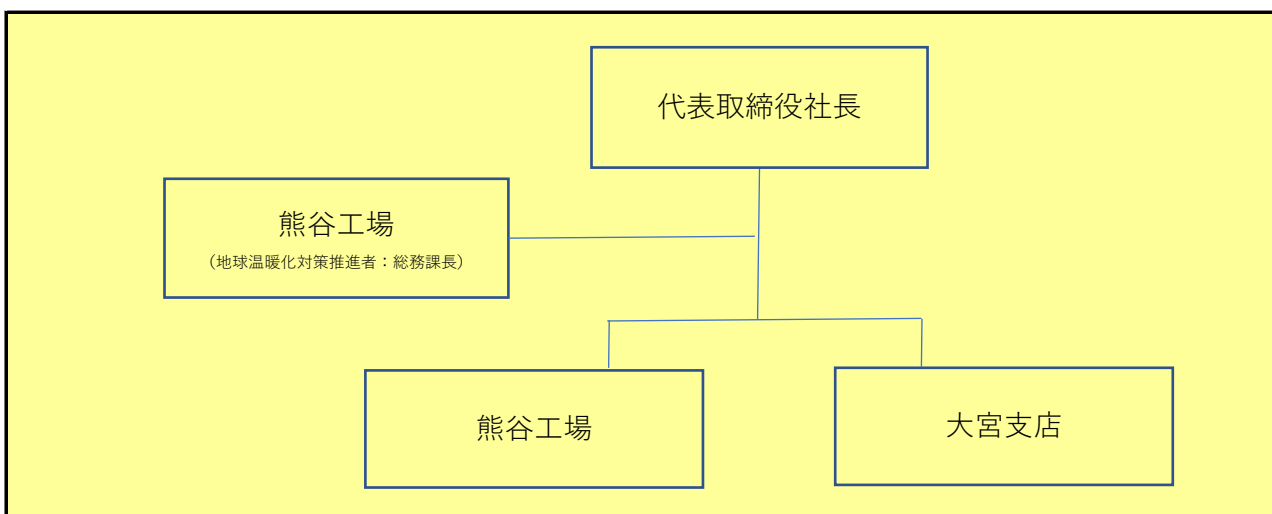
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	経営企画部サステナビリティ戦略G	03-4329-8959	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

アルビオンは、化粧品製造業として、また社会の一員として、環境課題に向き合い、美しい自然や安全な生活環境の保全に努めています。  
 製品を生み出す工場では、国際規格ISO14001に準拠した仕組みを構築。エネルギーの効果的な使用、廃棄物の削減、緑化保全の推進を通して、積極的に、継続的に環境への取り組みを行っています。  
 また、化粧品GMP（Good Manufacturing Practices＝化粧品の製造管理および品質管理に関する技術指針：ISO22716）に従った衛生的な構造設備を整え、指針に則した管理を実施しています。  
 化粧品原料の採用についても、産地の発展と自然保護はもちろん、将来を担う子供たちへの教育支援を行うなど、未来へと続く取り組みに力を注いでいます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,940				
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,940				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号

0619

事業所番号

061900

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
-------	--------------------------------------

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社アルビオン 大宮支店	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市大宮区宮町	
	字・地番	1-38-1 KDX大宮ビル4階	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	オフィス		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	23	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	令和2年度の排出量(23t-CO <sub>2</sub> )を基準として、令和6年までに5%削減を目標とします。					
その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
その他ガス						

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社アルビオン 大宮支店	さいたま市大宮区宮町1-38-1 KDX大宮ビル4階
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	12				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	23	23				
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0				
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		23				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.0374				
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単位					
床面積	m <sup>2</sup>	614.65				



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を定めた	R3		
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

サステナビリティの考え方は以下のホームページで公表しています。

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/>

令和 3 年度

事業者番号

0619

事業所番号

061901

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社アルビオン 熊谷工場		
事業所所在地	市区町村	熊谷市船木台	
	字・地番	4-1-1	
産業分類名 (中分類)	16 化学工業		
分類番号 (中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	高級化粧品の製造 スキンケア・メイクアップ・フレグランス・ヘアケア など化粧品全般の開発、製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和2年度の排出量(5,917t-CO <sub>2</sub> )を基準として、毎年1%削減します。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
			事業所区分			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,985				

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,917				
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,917				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.2562				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位	23,093.00				
生産数量					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	2020年8月に新たに第一生産棟を増築。それに伴い設備も増加しました。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を定めた	R3		
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

サステナビリティの考え方は以下のホームページで公表しています。

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/>



令和 3 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	ムサシ油脂株式会社			
所在地	東京都中央区日本橋本石町4-5-12			
事業者番号	0620			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,889	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	設立年月日：昭和46年8月31日 事業内容：植物油の粗原油生産		
	区分	企業		
	前年度	資本金	40	百万円
		従業員数	25	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所 種別	事業所 番号	事業所名	前年度の原油換算 エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	062001	ムサシ油脂株式会社 日高工場	1,889
合 計			1,889

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合 は別様としてください)	閲覧場所 1	事務所棟通路掲示板
		所在地 1	日高市原宿808-1
		閲覧可能 時間 1	月～金 8時～16時(土日祝を除)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部		
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

基本方針：企業活動から生じる環境への影響を認識し、地球環境の保全や資源循環型の持続可能な社会形成への寄与に務める。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

既存の資料を別添する（別紙1）

## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,747				
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,747				

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0620	事業所番号	062001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ムサン油脂株式会社 日高工場		
事業所所在地	市区町村	日高市原宿	
	字・地番	808-1	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	植物油粗原油の生産 従業員: 25名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	新規事業所であるため、令和2年度実績4,747 t-CO <sub>2</sub> を基準とし、毎年2%削減することを目標とする。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
			事業所区分			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,889				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,747			
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,747				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	0.4268				
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位					
粗原油	t/年	11,123.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	原料の入荷が増加した事により、工場の稼働日数が増加					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	年間の保全計画に沿って日常点検・定期点検を実施	R1以前	R1以前	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	日々の操作日報・作業日報及び、月報を管理	R1以前	R1以前	
3	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	事業所内で省エネ対策部門を立ち上げ、省エネの検討を行う	R3	R3	
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	火炎の目視管理及び煙突排煙の状態を監視し良好な燃焼状態を維持する	R1以前	R1以前	
5	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	良好な状態を維持する為、燃焼設備やバーナーの定期的な保守及び点検する	R1以前	R1以前	
6	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	ボイラー水の水質分析を定期的に外部に依頼し、その結果によりブロー量の調整を行う	R1以前	R1以前	
7	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管の蒸気漏れ及び保温の状態の点検を定期的に行う	R1以前	R1以前	
8	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	スチームトラップ及びドレン回収ラインの点検	R1以前	R1以前	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

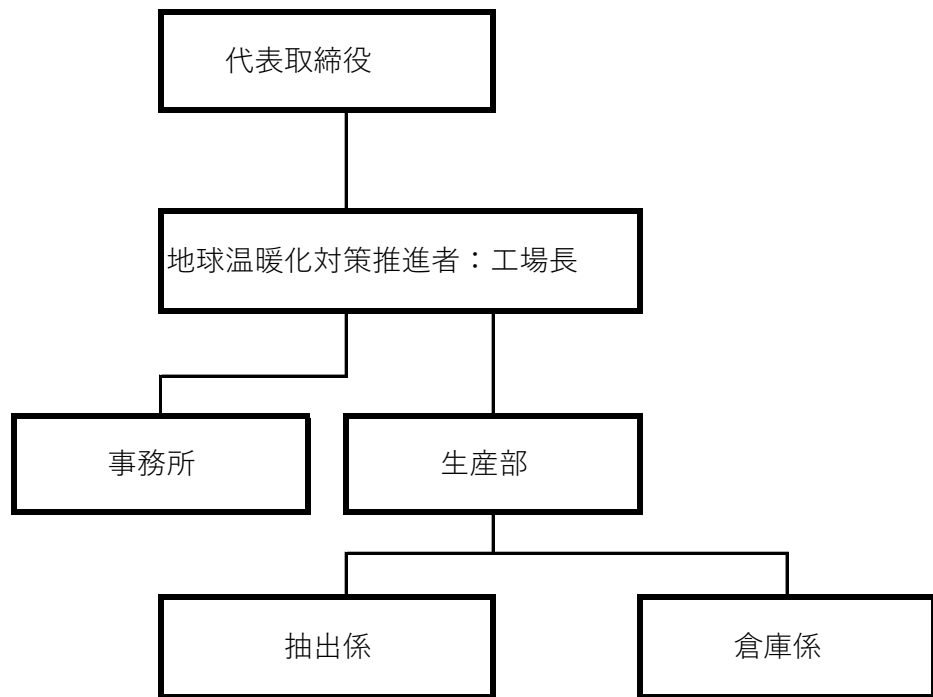
5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



別紙1 地球温暖化対策における事業者の推進体制



令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	東京センチュリー株式会社			
所在地	東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトビル			
事業者番号	0621			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	2,124	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床面積10,000m <sup>2</sup> 以上の事業所)		m <sup>2</sup>		
産業分類名 (中分類)	70 物品賃貸業			
分類番号 (中分類)	70			
事業活動の概要	事業内容	国内リース事業、国内オート事業、スペシャルティ事業、国際事業ほか		
	区分	企業		
	前年度	資本金	81,129	百万円
		従業員数	927	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	062101	東京センチュリー株式会社 DPL坂戸	2,124
合 計			2,124

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 DPL坂戸
		所在地 1 坂戸市西インター一丁目2-1, 2-2, 2-3
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	大和ハウスプロパティマネジメント株式会社	03-5214-2540	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

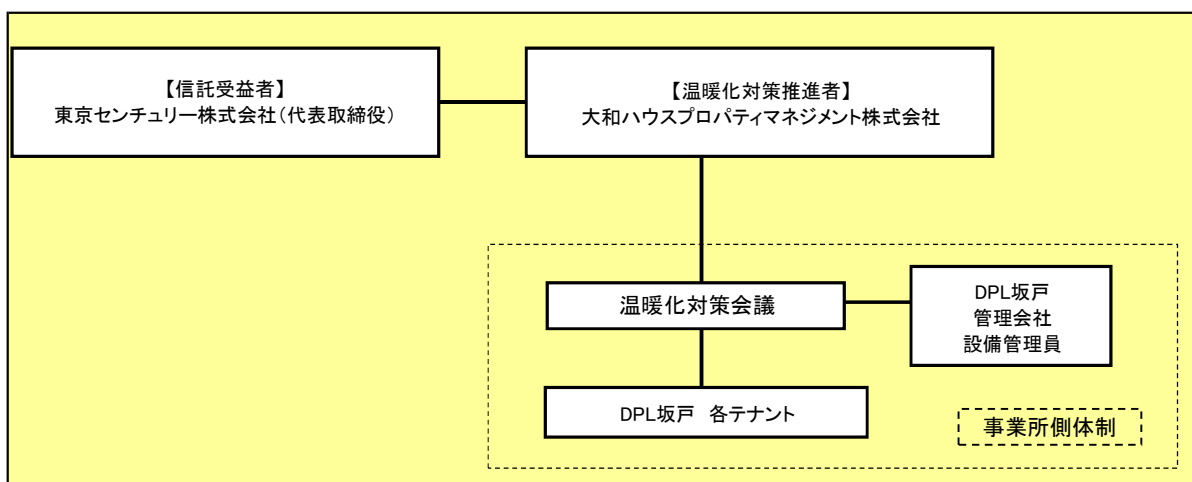
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

東京センチュリーグループは、環境問題への取り組みが社会的責務のひとつであると認識し、事業活動のあらゆる分野において、環境汚染の予防、温室効果ガスの排出削減、気候変動の緩和・適応、生物多様性および生態系の保全など環境問題に配慮し行動することで、持続可能な循環型経済社会の実現に貢献します。

【環境基本方針】

- ・事業を通じた地球環境保全
- ・循環型経済社会の実現への貢献
- ・省資源・省エネルギー活動の推進
- ・法令等の順守
- ・継続的改善への取り組み

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,196				
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,196				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0621	事業所番号	062101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	東京センチュリー株式会社 DPL坂戸		
事業所所在地	市区町村	坂戸市	
	字・地番	西インター一丁目2-1, 2-2, 2-3	
産業分類名 (中分類)	47 倉庫業		
分類番号 (中分類)	47		
事業活動の概要	事業内容	2020年3月竣工 ・物流倉庫 ・EC、卸売事業	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和2年3月竣工の新しい物流倉庫です。令和2年度においては、期中に本格的な稼働となったため、令和3年度の排出量は増加する見込みとなります。令和5年度からC事業所になる見込みとなるため、令和5,6年の2カ年度は基準排出量から8%の削減を目標とします。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第4計画期間は、基準排出量(R7～8は8%、R9～11は15%)に対し削減計画期間の平均削減率を12.2%以上とします。			
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,124				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,196				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,196				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0235				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
床面積	m <sup>2</sup>	178,711.33			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)						
令和4年度 (2022年度)						
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	エネルギー管理の体制構築を図る	R3		
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量把握に努める	R3		
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

東京センチュリー株式会社の環境基本方針をウェブサイトで公表しております。  
「東京センチュリー株式会社トップページ」→「サステナビリティへの取り組み」→「環境のために」  
→「環境基本方針」  
<https://www.tokyocentury.co.jp/jp/csr/environment/policy.html>

令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	三光アルミ株式会社			
所在地	埼玉県鴻巣市赤城台362-24			
事業者番号	0622			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	2,049	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の概要	事業内容	医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。 アルミ箔加工品、各種フィルム材料の加工販売。 主に医薬のPTP包材の印刷を行い、また、フィルム印刷、産業資材印刷も行っている。 従業員数：72名(2021年3月31日現在) 資本金：1億円(令和3年3月31日現在) 延べ床面積：4,933.6㎡		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	72	人
商標又は商号 (連鎖事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	062201	三光アルミ株式会社 本社・工場	2,049
合 計			2,049

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

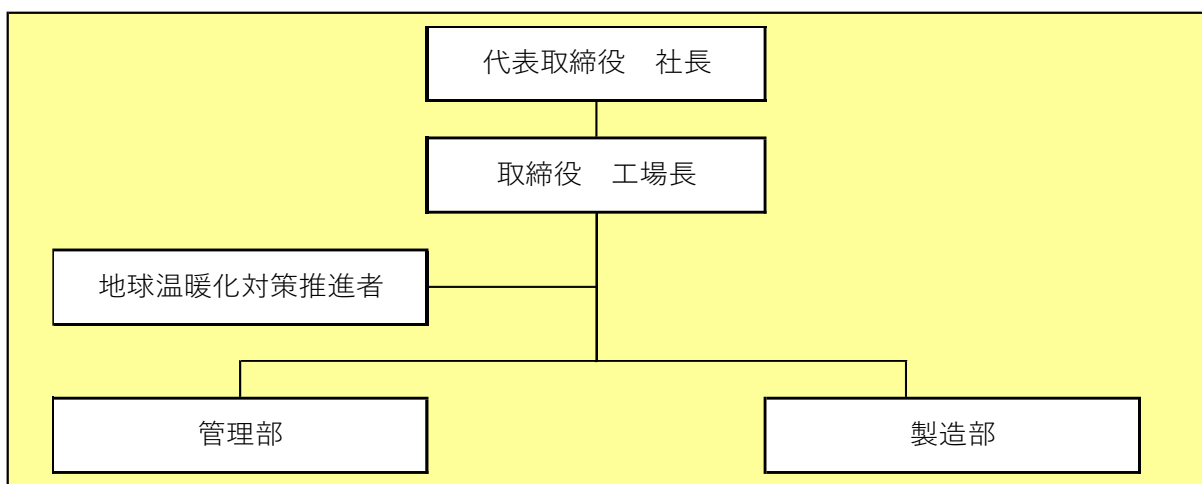
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本社 総務課	048-568-2131	sanko_soumu@sankoalumi.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球環境の負荷を減らす工場作りを推進し社会に貢献する

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,390				
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,390				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0622	事業所番号	062201
-------	------	-------	--------

## 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 事業所の概要

## (1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

## (2) 事業所及び事業内容

事業所名	三光アルミ株式会社 本社・工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	赤城台362-24	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。主に医薬のPTP包材の印刷を行い、また、フィルム印刷、産業資材印刷も行っている。 従業員数 : 72名(2021年3月31日現在)	

## 2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

## (1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

## (2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
2,049					

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,390				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,390				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0328				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	千M	133,727.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)							
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)							
	排出上限量 (C = Σ A-D)							
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,390					4,390	
	削減率 (F = (A - E) / A)						—	
	排出削減量 (G = A - E)							
各年度の排出量の検証		未実施						



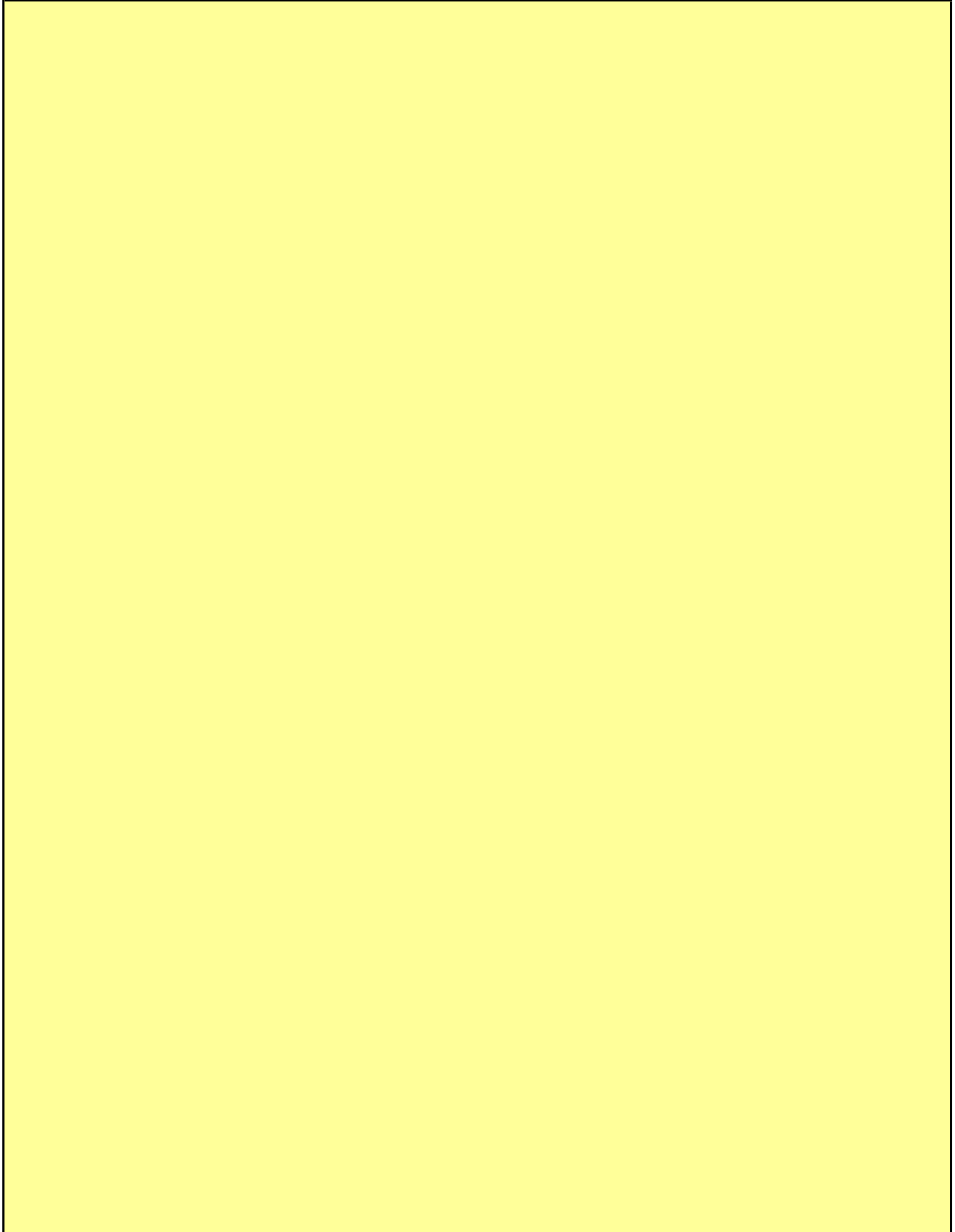
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明設備への切替	R3	
2	310500		一般管理事項	31_生産工程のエネル ギー管理	エネルギー計測機器の整備、主要設備 の効率・負荷の計測・記録	R3	
3	310100		一般管理事項	31_推進体制の整備	削減目標・実行計画の設定・進行管理	R3	
4	490100		その他	49_排出量取引	削減目標未達成の場合は排出量取引制 度を活用する	R7以降	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 3 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	河西工業ジャパン株式会社			
所在地	神奈川県高座郡寒川町宮山3316			
事業者番号	0625			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,067	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	31 輸送用機械器具製造業			
分類番号 (中分類)	31			
事業活動の概要	事業内容	自動車内装製造業 従業員数：112人（河西工業ジャパン(株) 寄居工場）埼玉県 資本金（全社）90百万		
	区分	企業		
	前年度	資本金	90	百万円
		従業員数	1,125	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	005102	河西工業ジャパン株式会社 寄居工場	1,067
合 計			1,067

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	寄居工場 技術課	048-582-3355	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

[1]環境目的・目標を定め、環境パフォーマンス向上に努めていきます。

[2]環境負荷を継続的に改善し、環境汚染の予防を推進していきます

**【重点活動項目】**

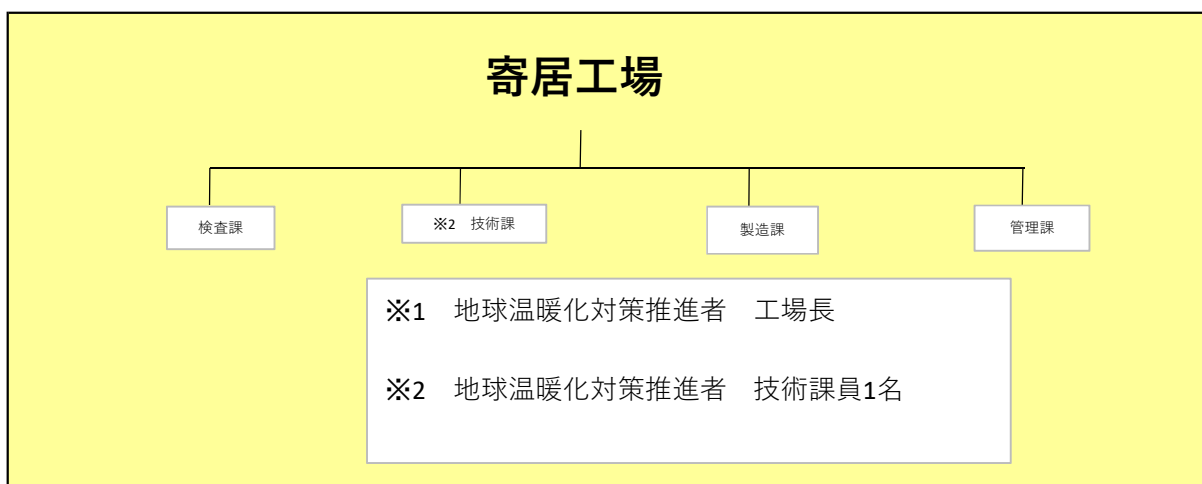
①早く・安く・低エネルギーで『人と環境にやさしいモノ作り』に取り組みます。

②『もったいない活動』を推進し、すべてのムダを排除します。

③『省エネ活動』を推進し、CO2排出削減に努めます。

[3]環境関連法規・条例・顧客の環境要求事項を遵守します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,104				
その他ガス					
温室効果ガスの計	2,104				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 3 年度

事業者番号	0625	事業所番号	005102
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	河西工業ジャパン株式会社 寄居工場		
事業所所在地	市区町村	大里郡寄居町	
	字・地番	大字赤浜158番地	
産業分類名(中分類)	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	31		
事業活動の概要	事業内容	自動車内装製造業 従業員112人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、令和2年度~令和4年度は6%以上、令和5年度、令和6年度は13%以上の削減率とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	17,765	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	1,715	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,067				

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	2,104				
前 年 度 比 ( % )	—				
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,104				

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.5115				
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
出荷額	百万円/年	4,113.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	-26.8%減の要因としては、COVID19、半導体工場火災の影響で生産台数が当初計画より大幅に減少したことが要因となっている。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	



3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	3,896	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,896	3,896	3,896	3,896	3,896	19,480
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						17,765
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						1,715
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	2,104					2,104
	削減率 (F = (A - E) / A)	46.00%					—
	排出削減量 (G = A - E)	1,792					1,792
各年度の排出量の検証		未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	350600		受変電設備、 配電設備 35抵抗等による電気の 損失の防止に関する 措置	電力デマンド監視装置の更新など見える 化を実施予定 (時期不明)			
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄